

平成29年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

安曇野市教育委員会

安曇野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

1 目的

安曇野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定に基づき実施したものです。

(参考)

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の対象

第 1 次安曇野市総合計画 基本構想 後期基本計画 [平成 25 年度～平成 29 年度] に位置付けられた重点施策に関連する 35 事務事業において、平成 29 年度に実施した事務事業を点検評価の対象としました。

3 自己評価の基準

自己評価の基準については、概ね下記の基準によります。

評価区分	評価にあたっての考え方
A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	一定の成果は上がっているものの、課題もあり、改善の必要がある
D	十分な成果が上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

4 点検・評価にあたり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 2 項に規定する教育に関し学識経験を有する者として、以下の方を委嘱しました。

安曇野市社会教育委員 細田 利章 氏
前安曇野市社会教育委員 平田 米子 氏
前安曇野市立豊科南小学校長 筒井 年恵 氏

平成 29 年度 安曇野市教育委員会事務事業点検・評価項目一覧

第 1 次安曇野市総合計画後期基本計画との関係	事務事業 NO	頁	評価対象事務事業	所管課	自己評価	
					H29	H28
第 3 章 人と文化を育むまちの形成	1	4	いじめ・不登校対策事業	学校教育課	B	B
第 1 節 郷土を担う人を育むまち 1 学校教育の充実 ①時代を担う人づくりの推進 ②特色ある学校教育の推進 ③学校施設の整備 ④相談支援体制の充実	2	5	適応指導教室運営事業	学校教育課	B	B
	3	6	教育相談事業	学校教育課	B	B
	4	8	就学相談事業	学校教育課	C	C
	5	9	教育指導員・教育相談員の配置	学校教育課	A	A
	6	10	学校加配職員及びスクールソーシャルワーカー等の配置・派遣事業	学校教育課	A	A
	7	12	学校 ICT 事業の推進	学校教育課	B	B
	8	13	英語教育の推進事業	学校教育課	C	C
	9	14	コミュニティスクール事業(スクールサポート事業から名称変更)	学校教育課	C	B
	10	15	中学生議会事業	学校教育課	B	B
	11	16	指導主事「授業支援」事業	学校教育課	B	B
	12	17	入学準備金貸付制度	学校教育課	C	C
	13	18	学校安全対策事業	学校教育課	B	B
	14	19	小・中学校施設改修事業	学校教育課	B	B
	15	20	給食事業	学校教育課	B	B
	2 青少年の健全育成	16	21	青少年健全育成事業	生涯学習課	B
第 3 章 人と文化を育むまちの形成 第 2 節 生涯を通じて学び合うまち 1 生涯学習の推進 ①生涯学習体制の構築 ②生涯学習機会の充実 ③生涯学習施設の整備	17	22	成人式実施事業	生涯学習課	B	B
	18	23	安曇野検定実施事業	生涯学習課	B	C
	19	24	生涯学習講座実施事業	生涯学習課	B	C
	20	25	社会教育団体支援事業	生涯学習課	C	C
	21	26	放課後・家庭教育推進事業	生涯学習課	C	C
	22	27	児童館運営事業	生涯学習課	C	C
	23	28	中央公民館事業	生涯学習課	B	B
	24	29	交流学習センター等事業	図書館交流課	B	B
	25	30	図書館活動の推進事業	図書館交流課	B	B
第 6 章 協働によるまちづくりの推進 第 1 節 協働で築かれるまち 4 人権の尊重 ①人権教育・啓発の推進 ②人権擁護団体の育成支援	26	32	人権教育推進事業	生涯学習課	B	B
27	33	人権啓発事業(安曇野市 1/2 成人式・)	生涯学習課	A	A	

安曇野市総合計画後期基本計画との関係	事務事業 NO	頁	評価対象事務事業	所管課	自己評価	
					H29	H28
2 スポーツ活動の推進 ①生涯スポーツの推進 ②スポーツ施設の整備と有効活用 ③競技スポーツの振興と指導者の育成 ④高齢者・生涯スポーツの推進 ⑤スポーツを通じたコミュニティづくり	28	34	体育団体等支援事業	生涯学習課	C	C
	29	35	市民スポーツ祭	生涯学習課	C	C
	30	36	新総合体育館建設事業	生涯学習課	C	C
	31	37	スポーツ振興事業（スポーツ教室等開催事業）	生涯学習課	B	B
第3章 人と文化を育むまちの形成 第3節 文化を学び育むまち 1 芸術文化活動の振興 ①地域文化の振興 ②芸術文化施策の充実 ③芸術文化活動の推進 ④歴史民俗資料の保存・活用	32	38	文化芸術振興事業	文化課	B	B
	33	39	諸団体との協働事業	文化課	B	B
	34	41	財政支援団体への補助	文化課	B	B
	35	42	博物館・美術館等の管理運営	文化課	B	B

事務事業	No.1	事務事業名： いじめ・不登校対策事業	H29年度決算額	21千円
事業の目的	いじめ・不登校の克服に向けて、学校・地域・関係機関が連携を図り、いじめ等の防止及び早期発見・早期対応を行う。			
事業内容	いじめ不登校問題対策連絡協議会において、児童、生徒のいじめ・不登校等の調査及び指導方法や発生防止の研究を行う。			
達成状況	<p>1 協議会委員構成(任期2年 当初は平成29年3月31日まで) 教育長 1名 福祉関係者 2名 警察関係者 1名 PTA関係者 1名 教育関係者 6名 行政関係者 2名 学識経験者 1名 計14名</p> <p>2 会議 ・安曇野市いじめ不登校問題対策連絡協議会(いじめ防止対策推進法制定により、前いじめ等対策委員会を発展的解消し設置) 開催：2回</p> <p>3 協議事項 ・学校及び地域におけるいじめ等の状況に関すること ・学校、地域、関係機関等によるいじめ等の防止の取り組みに関すること ・上記の他、いじめ等の防止に関すること</p> <p>4 成果 ・関係機関における対応及び児童生徒や保護者に関わる情報共有をすることができた。</p>			
事業の課題及び方向性	・いじめ・不登校の問題は全国的な課題であり、今日の学校教育について極めて重要です。これらの対応や解決には、学校だけでの対応では困難であり、各機関の連携が必要不可欠です。そのためにも各機関の代表が集まり情報の共有、意見交換を行うことは極めて重要です。組織を設置して3年目でもあるので、現状の組織及び内容を継続していきます。また、いじめに関しては定義を再度確認、周知徹底を図り、防止・早期対応の観点から、各機関との更なる連携の強化を目指します。			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.2	事務事業名： 適応指導教室運営事業	H29 年度決算額	9,089 千円																																																
事業の目的	不登校の児童生徒を対象に、学校復帰に向けての指導及び援助を行う。																																																			
事業内容	安曇野市教育支援センター設置条例に基づき、教育支援センター内に適応指導教室を設置し、不登校児童生徒の学校復帰に向けた適応指導・学習支援等を行う。 (職員体制:適応指導員 2 名、臨時指導員 2 名)																																																			
達成状況	<p>適応指導教室の在籍状況</p> <p>5カ年の在籍児童生徒数の推移 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>36</td> <td>18</td> <td>23</td> <td>19</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>年度計</td> <td>42</td> <td>24</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度、在籍が最も多かった学年は中学 3 年生 5 名、次いで中学 1 年生 4 名。中学 3 年生で平成 29 年度中に学校へ復帰できた生徒は 4 名。 適応指導教室で精神的・学力面ともに力をつけ、自己に自信を持つことができたと評価できる。 適応指導教室は、不登校および不適応傾向の児童生徒の一時的な適応機関としての機能が学校及び保護者に認められ、不登校等児童生徒への指導の選択肢として定着しつつある。 <p>*参考 安曇野市の 5カ年の欠席 30 日以上の不登校児童生徒の推移 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>29</td> <td>33</td> <td>23</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>97</td> <td>84</td> <td>93</td> <td>72</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>126</td> <td>117</td> <td>116</td> <td>100</td> <td>104</td> </tr> </tbody> </table> <p>不登校数は減少傾向(29年度は微増)にあるが、在籍率はほぼ横ばいの状況(長野県の傾向と同様)。</p>				年度	H25	H26	H27	H28	H29	小学生	6	6	11	14	13	中学生	36	18	23	19	14	年度計	42	24	34	33	27	年度	H25	H26	H27	H28	H29	小学校	29	33	23	28	28	中学校	97	84	93	72	76	計	126	117	116	100	104
年度	H25	H26	H27	H28	H29																																															
小学生	6	6	11	14	13																																															
中学生	36	18	23	19	14																																															
年度計	42	24	34	33	27																																															
年度	H25	H26	H27	H28	H29																																															
小学校	29	33	23	28	28																																															
中学校	97	84	93	72	76																																															
計	126	117	116	100	104																																															
事業の課題及び方向性	スクールソーシャルワーカー・不登校支援コーディネーターとの情報共有を図り、課題となっている在籍校と、各校の適応指導教室(中間教室)支援員や関係者との連携を更に強化していきます。																																																			
自己評価	B																																																			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.3	事務事業名： 教育相談事業	H29年度決算額	1,397千円																								
事業の目的	学校生活等で困難を抱えている子ども達や保護者、学校関係者を支える。																											
事業内容	不登校、引きこもり、発達障がい、学校生活、進路、子育て全般、しつけ等についての教育相談活動（電話相談及び面接相談）を実施。 （職員体制：教育相談員 常勤1名、非常勤3名）																											
達成状況	<p>教育相談事業の重点と状況</p> <p>目的達成に向け、「安曇野市における教育相談体制の整備と強化を図るとともに、<u>地域における関係機関、関係団体との連携、共同体制を構築していく</u>」ことを重点とし時代のニーズに応じた<u>教育相談室運営</u>を目指してきた。</p> <p><連携してきた関係機関、団体></p> <p>小中学校・特別支援教育コーディネーター連絡会・家庭児童相談室・子ども発達支援相談室・特別支援学校教育相談員・適応指導教室・就学相談調査員・障がい者総合支援センターあるぷ・その他</p> <p>※教育相談室の支援だけでは効果が不十分と考えられる場合、相談者の了解や要請により、上記の関係機関、団体と連携して相談業務を行った。関係者間で「チーム支援」の意識を深めるとともに、新たな視点や発想の基で、課題解決に向けた取り組みが可能となってきている。</p> <p><教育相談の状況></p> <p>① 相談・来室者実人数：319人</p> <p>② 相談方法別相談件数(面談1回で複数人の面談を行う場合あり)</p> <p>来室による面談：148件・電話相談：30件・学校訪問：67件</p> <p>③相談対象者の年齢別相談回数(実質的な相談件数。相談報告書と一致する数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>来訪者</th> <th>件数</th> <th>来訪者</th> <th>件数</th> <th>来訪者</th> <th>件数</th> <th>来訪者</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乳幼児</td> <td>32</td> <td>小学生</td> <td>183</td> <td>中学生</td> <td>24</td> <td>高校生</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>1</td> <td>教師</td> <td>0</td> <td>その他</td> <td>0</td> <td>合計</td> <td>244</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 相談の主訴(1件の相談に関し、複数の主訴あり)</p> <p>性格行動214件 不登校61件 育児・しつけ5件 非行・反社会行動1件 発達障がい45件 知的障がい21件 心身症8件 学校・学級経営11件 学校生活・園生活241件</p> <p>※27年度より、学校や保護者の要請により、心理発達検査(WISC-IV)も実施し、その結果を基に、学校職員や保護者等に説明の機会を持つようにしたこと、指導・支援の具体的な内容や方法、家庭生活におけるわが子への具体的な接し方、子育てのポイント等が分かり、とてもありがたいという声をいただいている。また、子ども支援課と連携し、認定子ども園の園長や保育士に対し、WISC検査実施を通して園児への支援方法についての助言も行っている。</p>				来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数	乳幼児	32	小学生	183	中学生	24	高校生	2	保護者	1	教師	0	その他	0	合計	244
来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数																					
乳幼児	32	小学生	183	中学生	24	高校生	2																					
保護者	1	教師	0	その他	0	合計	244																					

事業の課題及び方向性	<p>関係機関との連携、共同体制の構築をさらに進める必要があります。早期発見・支援、一貫した継続的な支援が今後増々問われてきます。</p> <p>そのために、当市の大きな課題は、部局を超えた支援の連携が必須であるという共通認識のもと、更なる共同体制の構築に資していくことにあります。(例：就園前、就園時から小学校入学後への移行支援、中学卒業後の支援の充実→福祉部、保健医療部、教育部などの連携が必要)</p>
自己評価	B

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.4	事務事業名： 就学相談事業	H29年度決算額	3,759千円																																	
事業の目的	安曇野市心身障がい児就学相談委員会では、知的障がい、その他心身障がいの疑いのある児童等の調査、審査（入級、退級についての審査）および就学の相談を行う。																																				
事業内容	1 安曇野市心身障がい児就学相談委員会(委員 19名) 年3回開催 2 5地区別就学相談小委員会（小委員のべ数 72名）年間 13回開催 3 小委員会に向け資料作成のため、調査員が幼稚園、認定こども園にて観察と相談（観察園児のべ数 164名）年2回実施 4 平成28年度就学相談を受け平成29年度小中学校1年に入学した児童生徒の経過観察（小1児童 55名、中1生徒 48名、計 103名）年1回実施																																				
達成状況	(判定数) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象者</th> <th rowspan="2">人数</th> <th colspan="3">判定結果</th> <th rowspan="2">判定と異なる就学者</th> </tr> <tr> <th>通常学級</th> <th>特別支援学級</th> <th>特別支援学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼児</td> <td>71</td> <td>33</td> <td>31</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>78</td> <td>2</td> <td>71</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>164</td> <td>35</td> <td>117</td> <td>12</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>				対象者	人数	判定結果			判定と異なる就学者	通常学級	特別支援学級	特別支援学校	幼児	71	33	31	7	1	児童	78	2	71	5	0	生徒	15	0	15	0	0	計	164	35	117	12	1
対象者	人数	判定結果					判定と異なる就学者																														
		通常学級	特別支援学級	特別支援学校																																	
幼児	71	33	31	7	1																																
児童	78	2	71	5	0																																
生徒	15	0	15	0	0																																
計	164	35	117	12	1																																
事業の課題及び方向性	1 就学判定数が平成28年度より5名増となっている。今後、早期スタートで年中からの相談も増えることが予想される。委員会前後の事務量や調査員の相談業務量の増加が著しく、今年1名人員増したが、相談日調整が難しい。 2 園児の就学相談の早期スタートが必要です。子ども発達相談室を中心に年中児のスクリーニングの試みを開始したと聞いているが、福祉課・健康推進課・子ども支援課・学校教育課などが、それぞれに受け持つことを、今できる連携の中で最善を尽くしてきているが、根本的な見直しを要望していきたい。																																				
自己評価	C																																				

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.5	事務事業名： 教育指導員・教育相談員の配置	H29年度決算額	－ 千円
事業の目的	各学校における学力・体力向上をはかると共に教育相談に対応し、安定した学校運営が行えるようにする。			
事業内容	(1) 教育全般について各学校・各機関との連携、支援 (2) 学力・体力向上にむけての取組 (3) 就学相談 (4) 教育相談 (職員体制：教育指導員3名 教育相談員1名)			
達成状況	(1) 教育全般について各学校・各機関との連携、支援 ① 学校と教育指導員との懇談会 4、5月に実施。 市内17校 ② いじめホットラインとして、保護者や学校との相談 ③ 福祉課、子ども支援課等との連携担当者会議を実施 週1回 (2) 学力・体力向上に向けての取組 ① 安曇野市学力・体力4ヵ年計画の実施(27年度からスタート) ② 組織及び運営 ア 学力向上推進委員会 ・ 年9回開催し、全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察し、報告書にまとめると共に、次年度へ向けた授業改善にかかわる提言をした。 イ 体力向上推進委員会 ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査や、新体力テストの結果を分析し、公表すると共に、体力向上にむけた実践を公表するとともに、体づくり、運動遊びの研修として、長野県版運動プログラム普及事業の実施。各学校に訪問し、体づくり・運動遊びや日常の運動などについて支援。 ウ 部活動運営委員会 ・ スクールサポート事業として、健全な部活動のあり方について検討、各校の課題解決に向けて支援。 (3) 就学相談 ① 心身障がい児就学相談委員会 ・ 小中学校入学及び在学中の児童生徒に関わる、適切な就学の検討。 (4) 教育相談 教育支援センター教育相談室での教育相談に対応。			
事業の課題及び方向性	○学力・体力向上については、4ヵ年計画とし、28、29年度は「定着と深化」、30年度は「実践と評価・考察」に向けて取り組んでいきます。 ○就学支援および教育相談については、児童生徒の観察、保護者の意向などを確実に捉え、学校や各機関との連携を図りながら対応していきます。			
自己評価	A			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.6	事務事業名： 学校加配職員及びスクールソーシャルワーカー等の配置・派遣事業	H29 年度決算額	141,672 千円																																											
事業の目的	障がい等により特別な支援を要する児童・生徒に対応するための職員を配置し、学習や学校生活の支援を行うとともに、障がい児等指導相談員等を派遣し指導方法の相談・助言を行い、健やかな成長を支援する。																																														
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の要望に基づき、障がい児支援員・特別支援学級補助員・中間教室支援員等の配置 ・不登校対策として、各校を巡回するスクールソーシャルワーカー、不登校支援コーディネーター、スクールカウンセラーの派遣 ・障がい児等指導相談員（学校心理士・作業療法士・言語聴覚士）の派遣 																																														
達成状況	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい児支援員は、特別支援学級や普通学級の仲間と行う授業等活動時に、特に学級内の人間関係面の支援と、その子どもの特性に応じた支援を心掛け、子どもが安定して活動に参加し、自己実現の経験が数多くできるよう努力し、その児童生徒と周囲の集団の生活安定に大きく寄与している。 ・各校配置の中間教室指導員ほか、スクールソーシャルワーカー、不登校支援コーディネーター及び市適応指導教室の適応指導員など、不登校支援に関わる職員が不登校傾向の子どもの支援の中核となり、関係機関とも連携しながら登校につなげる活動を行っている。 <p>【配置・派遣状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>職 名</th> <th>延べ人数</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">賃金</td> <td>医療支援員（看護師）</td> <td>1</td> <td>（小学校）</td> </tr> <tr> <td>障がい児支援員</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別支援学級補助員</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習支援員</td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中間教室支援員</td> <td>18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スクールソーシャルワーカー 不登校支援コーディネーター</td> <td>2</td> <td>（巡回型）</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>67</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">謝礼</td> <td>スクールカウンセラー</td> <td>9</td> <td>（巡回型）</td> </tr> <tr> <td>障がい児等指導相談員</td> <td>3</td> <td>（巡回型）</td> </tr> <tr> <td>放課後学習指導室支援員</td> <td>39</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>51</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>118</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○スクールソーシャルワーカー、登校支援コーディネーター活動のべ件数（2名合計）</p> <p>面談 176 家庭訪問 86 登校支援 536 日中活動支援 1,268 支援会議 220 その他 368 合計 2,654</p>					職 名	延べ人数	備 考	賃金	医療支援員（看護師）	1	（小学校）	障がい児支援員	20		特別支援学級補助員	20		学習支援員	6		中間教室支援員	18		スクールソーシャルワーカー 不登校支援コーディネーター	2	（巡回型）	小計	67		謝礼	スクールカウンセラー	9	（巡回型）	障がい児等指導相談員	3	（巡回型）	放課後学習指導室支援員	39		小計	51			合計	118	
	職 名	延べ人数	備 考																																												
賃金	医療支援員（看護師）	1	（小学校）																																												
	障がい児支援員	20																																													
	特別支援学級補助員	20																																													
	学習支援員	6																																													
	中間教室支援員	18																																													
	スクールソーシャルワーカー 不登校支援コーディネーター	2	（巡回型）																																												
	小計	67																																													
謝礼	スクールカウンセラー	9	（巡回型）																																												
	障がい児等指導相談員	3	（巡回型）																																												
	放課後学習指導室支援員	39																																													
	小計	51																																													
	合計	118																																													

事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を抱えている児童生徒が増加している中、障害者差別解消法を受け、合理的な配慮が求められています。そのためには支援を行う職員の配置について、より要望及び重要性が増しています。このことから、当事業は継続することと共に、保護者の要望からも一層充実を考えていかなくてはならない事業です。
自己評価	A

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.7	事務事業名： 学校 ICT 事業の推進	H29 年度決算額	110,198 千円
事業の目的	<p>情報化の進む社会での生活に必須である、パソコン等に触れる機会を設けるとともに、どの児童・生徒にとっても分かりやすい授業となるよう ICT 機器を活用して、子ども達の「生きる力」を育む学校教育を推進する。</p> <p>慢性的に飽和状態にある教員の業務について、ICT の活用で校務事務の効率化を図り、授業や子供たちと向き合う時間を創出できる環境を整備する。</p>			
事業内容	<p>教育用・校務用のパソコン等の情報機器について、セキュリティを考慮しつつ見直しを含めた更新・整備を行う。</p> <p>新学習指導要領に適合した授業の推進を支援するため、文部科学省が示す「第 2 期教育振興基本計画」に基づいた情報機器の導入を行う。</p> <p>校務支援システムの導入と積極的活用により、教員の事務処理に係る負担軽減を図り、授業の質向上への側面的支援を行う。</p>			
達成状況	<p>ICT 環境の整備に重要な情報ネットワークの高速化とセキュリティの強化を図るため、教育委員会管理のセンターサーバを設置した。各学校の機器更新に合わせ、順次、学校内ネットワークの再構築を行う。</p> <p>「第 2 期教育振興基本計画」の整備目標の機器の 1 つである電子黒板について、市内中学校への一斉導入（126 台）を行った。</p> <p>今後、更新時期を迎えるパソコン教室の教育用パソコンや教職員が使用する校務用パソコンの更新については、コストパフォーマンスに配慮しながら、なるべく陳腐化を抑制できる仕様により構成する。</p> <p>【センターサーバ設置】 平成 27～28 年度に実施済（時期更新は 32 年度～） グループウェア・校務管理サーバ、資産管理サーバ、 教育用ファイルサーバ、管理サーバ、フィルタリングサーバ</p> <p>【各小中学校パソコン等更新計画】 平成 30 年度 穂高南小・穂高西小・穂高北小・穂高東中・穂高西中 平成 31 年度 豊科南小・豊科北小・豊科東小・豊科南中・豊科北中 三郷小・三郷中</p> <p>【電子黒板】 ※ 新規 平成 29 年度 電子黒板（プロジェクター型）126 台導入 市内 7 中学校の普通教室他</p>			
事業の課題及び方向性	<p>電子黒板と校務支援システムの導入を小学校から強く要望されています。</p> <p>平成 30 年度に示される次期学習指導要領を踏まえて、タブレット端末等の整備を検討する必要があります。</p>			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要があります。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.8	事務事業名： 英語教育の推進事業	H29 年度決算額	67,832 千円
事業の目的	グローバル化する国際社会に対応できる人材の育成を目指し、国際感覚を養うと共に、英会話能力の向上と英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童・生徒を育成する。			
事業内容	中学生海外ホームステイ交流派遣事業や、中学校英語課外授業を実施するほか、中学校7校に1人ずつの外国人ALTと、小学校の外国語活動において、外国人ALT4人と、日本人ALT2人を配置し、英語教育の推進を図る。			
達成状況	<p>中学生海外ホームステイ交流派遣事業</p> <p>本事業も4回目となり、平成29年度事業においても市内中学校2年生に募集を行い、14人の参加生徒に対し54人の応募があった。</p> <p>選考された参加生徒は、3回のオリエンテーション、6回の英会話レッスンを受講しホームステイに臨んだ。現地での貴重な体験は、平成30年5月27日開催の帰国報告会で多くの来場者へ発表され、頼もしい中学生の姿を見ていただくことができた。</p> <p>派遣期間：平成30年3月17日（土）から3月26日（月）までの10日間 派遣先：オーストラリア メルボルン</p> <p>中学校英語課外授業</p> <p>市内中学校7校で放課後を活用して実施している。授業は原則的に全て英語による実践的な英会話授業で、「英会話がもっと上達したい」「外国人と日常会話ができるようになりたい」と思う生徒が、ALT、参加生徒と英語でコミュニケーションを取ることで、英語の楽しさを実感できる課外授業となっている。</p> <p>平成29年度参加生徒数：69人</p> <p>外国語指導助手派遣事業</p> <p>小学校、中学校へALTを派遣し、英語授業におけるチームティーチングや英語に触れる機会は、子ども達の国際的視野の育成やコミュニケーション能力の素地を養い、英語教育の推進に繋がっている。</p>			
事業の課題及び方向性	英語課外授業は、参加希望者の多さを考慮して1クラスあたりの生徒数の見直しを行い、平成30年度より10人→12人としました。今後も学校規模や希望者に合わせて、受け入れ可能人数の拡大について検討していく必要があります。財政上の課題として、中学生海外ホームステイ交流派遣事業の個人負担額の見直しを検討する必要があります。			
自己評価	C			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.9	事務事業名： コミュニティスクール事業	H29 年度決算額	7,087 千円																				
事業の目的	子どもたちの育成環境の充実に向け、学校と家庭さらに地域の人々と連携を図り、開かれた特色ある学校づくりを進めるため、地域住民が多様な形態で学校教育を支援し、大人との関りを通じて「生きる力」を育む。																							
事業内容	地域の方々が学校支援ボランティアとして、学校が必要とする支援活動に参加するほか、立志塾の開催、各地域における地域教育協議会においては、学校運営等の協議を行い地域と学校が共通理解を図る。																							
達成状況	<p>学校支援ボランティアの活動</p> <p>平成 29 年度の市内全小中学校のコミュニティスクール事業（スクールサポート事業より名称変更）の申請件数（部活動外部指導者申請を含む）は 223 件で、昨年度より 11 件増加している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">平成 28 年度申請件数</th> <th style="width: 50%;">平成 29 年度申請件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習支援活動 87 件</td> <td>学習支援活動 85 件</td> </tr> <tr> <td>総合的な学習支援活動 41 件</td> <td>総合的な学習支援活動 45 件</td> </tr> <tr> <td>読書支援活動 17 件</td> <td>読書支援活動 19 件</td> </tr> <tr> <td>子ども安全支援活動 9 件</td> <td>子ども安全支援活動 11 件</td> </tr> <tr> <td>環境整備支援活動 7 件</td> <td>環境整備支援活動 6 件</td> </tr> <tr> <td>外国籍児童生徒支援活動 4 件</td> <td>外国籍児童生徒支援活動 6 件</td> </tr> <tr> <td>障がい児支援活動 1 件</td> <td>障がい児支援活動 2 件</td> </tr> <tr> <td>部活動支援活動(外部講師) 45 件</td> <td>部活動支援活動(外部講師) 48 件</td> </tr> <tr> <td>課外活動支援活動 1 件</td> <td>課外活動支援活動 1 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>立志塾の開催</p> <p>市内各中学校では、安曇野の中学生のよりよい育ちに向け、子どもたちの心に火をつけ、高き志を培うことを目標に、学社連携の取り組みとして、各学校に講師を招き開催している。</p> <p>平成 29 年度開催学校：6 校 開催回数：11 件</p>				平成 28 年度申請件数	平成 29 年度申請件数	学習支援活動 87 件	学習支援活動 85 件	総合的な学習支援活動 41 件	総合的な学習支援活動 45 件	読書支援活動 17 件	読書支援活動 19 件	子ども安全支援活動 9 件	子ども安全支援活動 11 件	環境整備支援活動 7 件	環境整備支援活動 6 件	外国籍児童生徒支援活動 4 件	外国籍児童生徒支援活動 6 件	障がい児支援活動 1 件	障がい児支援活動 2 件	部活動支援活動(外部講師) 45 件	部活動支援活動(外部講師) 48 件	課外活動支援活動 1 件	課外活動支援活動 1 件
平成 28 年度申請件数	平成 29 年度申請件数																							
学習支援活動 87 件	学習支援活動 85 件																							
総合的な学習支援活動 41 件	総合的な学習支援活動 45 件																							
読書支援活動 17 件	読書支援活動 19 件																							
子ども安全支援活動 9 件	子ども安全支援活動 11 件																							
環境整備支援活動 7 件	環境整備支援活動 6 件																							
外国籍児童生徒支援活動 4 件	外国籍児童生徒支援活動 6 件																							
障がい児支援活動 1 件	障がい児支援活動 2 件																							
部活動支援活動(外部講師) 45 件	部活動支援活動(外部講師) 48 件																							
課外活動支援活動 1 件	課外活動支援活動 1 件																							
事業の課題及び方向性	「安曇野市コミュニティスクール事業」への名称変更後の初年度、これまでの市教委・学校・地域の連携体制を継承していますが、事務分担などに問題が残ります。他の多くの自治体で行われているボランティアへの謝礼の無償化や事業の分化への取り組みが必要です。																							
自己評価	C																							

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.10	事務事業名： 中学生議会事業	H29年度決算額	40千円
事業の目的	中学生の目線による斬新な発想やアイデアを、今後の協働のまちづくり推進に活かすとともに、中学生が主権者の立場で政治への関心を高められるようにする。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各中学校（7校）2年生から、計18人を中学生議員として委嘱する。 ・全3回の学習会で、市政について市職員から学習する。 ・提言型の質問書を作成し、中学生議会当日発表する。 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会の実施 第1回学習会では、市政全般についての説明を受け、議員の方のお話を聞いた。また、目指す安曇野市像を視覚化するために、グループ内でウェビングマップを作成し、全体で発表した。 グループは6つに分かれて実施（グループ名は総合計画と揃える）。 （1）穏やかに暮らせるまち（2）安全・安心・快適なまち （3）豊かな産業のあるまち（4）人と文化を育むまち （5）協働によるまちづくり（6）環境にやさしいまち 第2回、第3回学習会では、市の12部42課の方から市政について深く説明を聞く機会を設けた。 ・質問書の作成 各中学校の担当教諭のご指導のもと、質問書を作成した。 ・傍聴を増やすための取組 ○議会当日にパブリックビューイングとして、大会議場にて中継による傍聴を可能にした。 ○支所や図書館などに、中学生議会のポスターの掲示依頼。 →29年度の傍聴数は74名（昨年度73名、一昨年度39名）。 ・議会当日の進行について 部長等の答弁を受けて、中学生議員が「自分にできること」をひとこと添えた。一方通行のやり取りではなく対話的に行えるよう配慮した。 			
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで6回の中学生議会にて提案されたことに対する各課の取組を整理し、毎年の課題が建設的な提言になっていくようになります。 ・提言型質問の内容が、市政には寄り添うものになりますが、中学生からは少し離れた内容になりやすいので、「目指す安曇野市の姿」を実現するための提言であるということをおお前提において作成していきます。 			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.11	事務事業名： 指導主事「授業支援」事業	H29 年度決算額	— 千円																																										
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野の教育大綱と学力体力向上4カ年計画を実現する。 ・新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて教員の資質能力向上を図る。 																																													
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校 17 校への授業づくり支援 ・研究グループ（部会）への参加、支援 ・指導主事通信を発行し、先生方や児童生徒のよい姿をとらえ、広めていく。 																																													
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「できる限り学校へ足を運ぶこと」を心がけ、135 回訪問した。そのうち、学校からの訪問要請は 77 回で、日々の授業づくりをする機会を頂いた。 ・授業参観に限らず、「授業づくり支援」として事前に訪問し、先生方と共に教材研究や授業構想を練り、本番に備える形態での支援も行った。 ・学級づくりや児童生徒指導にかかわる支援の要請も多く、日々学校のニーズに答えられる支援を目指した。 <p>支援内容の内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">学校訪問総数</th> <th colspan="4">学校訪問の内訳</th> </tr> <tr> <th></th> <th>訪問回数</th> <th>昨年度</th> <th>授業参観</th> <th>昨年度</th> <th>授業づくり支援</th> <th>昨年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>68</td> <td>37</td> <td>53</td> <td>33</td> <td>15</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>67</td> <td>49</td> <td>44</td> <td>32</td> <td>23</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>135</td> <td>86</td> <td>97</td> <td>65</td> <td>38</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>校外</td> <td>6</td> <td>6</td> <td colspan="3">※上記の内、学校から要請数 →</td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・教師主導型の授業が減り、児童生徒が主体的に学習を進める場面が増えた。 ・中学校に大型電子黒板が導入され、効果的に使われている場面が多かった。生徒の顔がしっかりと上がり、学びに向かう力が育成されている。 				学校訪問総数			学校訪問の内訳					訪問回数	昨年度	授業参観	昨年度	授業づくり支援	昨年度	小学校	68	37	53	33	15	4	中学校	67	49	44	32	23	17	合計	135	86	97	65	38	21	校外	6	6	※上記の内、学校から要請数 →			77
学校訪問総数			学校訪問の内訳																																											
	訪問回数	昨年度	授業参観	昨年度	授業づくり支援	昨年度																																								
小学校	68	37	53	33	15	4																																								
中学校	67	49	44	32	23	17																																								
合計	135	86	97	65	38	21																																								
校外	6	6	※上記の内、学校から要請数 →			77																																								
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を付けるために、「何を教えるか」ではなく「何ができるようになるか」をさらに意識したい。 ・「先生の言った通りのことができる力」ではなく、課題を解決するために自分で考え、それを友と練り上げ、多面的な考えをもつことができる力を目指したい。 ・ICT機器を更に効果的に活用し、「勉強したい」という子どものサインを巧みに引き出し、意欲を高める魅力的な授業を展開したい。 ・30 年度は、新学習指導要領の移行期間に入る。「どんな子どもたちに育てたいか」のイメージを先生方と共有し、子どもたちの気持ちをつかむ魅力あふれる授業づくりをしたい。 																																													
自己評価	B																																													

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

事務事業	No.12	事務事業名： 入学準備金貸付制度	H29 年度決算額	4,680 千円																												
事業の目的	未来を担う人材の育成を図るため、高等学校又は大学等への入学に要する費用の支出が困難な保護者に対し、入学準備金を無利子で貸付ける「安曇野市入学準備金貸付制度」を創設し、平成 28 年 11 月から運用を開始した。																															
事業内容	平成 30 年 4 月に高等学校又は大学等への入学を希望する生徒の保護者で、入学に要する費用の支出が困難な方に対し、入学準備金の貸付けを無利子で行なう。																															
達成状況	<p>1. 貸付限度額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学校種別等</th> <th>貸付限度額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">高等学校・高等専門学校</td> <td>国・公立</td> <td>10 万円</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>30 万円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大学・短期大学・専門学校</td> <td>国・公立</td> <td>40 万円</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>60 万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 要件</p> <p>(1) 高校・大学等に入学することが確実である進学希望者の保護者で安曇野市に住民票があり、かつ、現に市内に居住している方</p> <p>(2) 生計を一にする者の所得の合計額が基準額以下である方</p> <p>(3) 所得の合計額が基準額以上であっても、経済状況等が急変した方</p> <p>(4) 連帯保証人を立てられる方</p> <p>3. 返済方法 入学月の 4 月から返済が始まり、進学者の通常の修学期間内に完済</p> <p>4. 平成 29 年度利用実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>私立高校</th> <th>私立大学</th> <th>私立短期大学</th> <th>私立専門学校</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2 件</td> <td>4 件</td> <td>1 件</td> <td>2 件</td> <td>9 件</td> </tr> <tr> <td>600,000 円</td> <td>2,400,000 円</td> <td>480,000 円</td> <td>1,200,000 円</td> <td>4,680,000 円</td> </tr> </tbody> </table>				学校種別等		貸付限度額	高等学校・高等専門学校	国・公立	10 万円	私立	30 万円	大学・短期大学・専門学校	国・公立	40 万円	私立	60 万円	私立高校	私立大学	私立短期大学	私立専門学校	計	2 件	4 件	1 件	2 件	9 件	600,000 円	2,400,000 円	480,000 円	1,200,000 円	4,680,000 円
学校種別等		貸付限度額																														
高等学校・高等専門学校	国・公立	10 万円																														
	私立	30 万円																														
大学・短期大学・専門学校	国・公立	40 万円																														
	私立	60 万円																														
私立高校	私立大学	私立短期大学	私立専門学校	計																												
2 件	4 件	1 件	2 件	9 件																												
600,000 円	2,400,000 円	480,000 円	1,200,000 円	4,680,000 円																												
事業の課題及び方向性	<p>・平成 29 年度は、夏休み前に中学校、高校等の生徒及び保護者への周知を図った。30 年度も引き続き夏休み前の周知を行う。</p> <p>・29 年度から返済が開始されているが、滞納となる世帯が出始めてきているので、一定期間経過した後、保護者または連帯保証人への催告を都度行っていく。</p>																															
自己評価	C																															

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.13	事務事業名： 学校安全対策事業	H29 年度決算額	2,831 千円
事業の目的	通学路、学校敷地内の安全確保に対する対策を実施する。			
事業内容	児童・生徒の安全確保のため、熊よけ鈴の配布、通学路安全マップの作成、スズメ蜂等の害虫駆除、学校緊急無線通報システム、学校安全連絡網メール配信システムの活用、通学路合同点検の実施等の各種対策をする。			
達成状況	<p>(1) 熊よけ鈴の配布 小学校に対し希望数を調査し、予算の範囲内で購入・配布している。 平成 29 年度配布学校数：8 校（100 個）</p> <p>(2) 通学路安全マップの作成 通学路における危険箇所、注意箇所を記載した安全マップを関係機関及び地域に配布し、安全指導、見守り等の安全確保に活用していただくほか、市ホームページにも掲載し、一般の方が確認できるようにしている。</p> <p>(3) スズメ蜂等害虫駆除 学校敷地内のスズメ蜂の巣を専門業者に依頼し、駆除を行っている。 平成 29 年度実施件数：12 校 28 回</p> <p>(4) 学校緊急無線通報システム 学校内に不審者が侵入した場合や事故等があった場合、即座に職員室に連絡が取れる緊急無線通報システムを活用している。</p> <p>(5) 学校安全連絡網メール配信システム 安全連絡網メール配信システム（オクレンジャー）により、警察からの不審者情報をタイムリーに送信するほか、緊急連絡網として活用している。</p> <p>(6) 通学路合同点検の実施 通学路の継続的な安全確保の取り組みとして「安曇野市通学路交通安全プログラム」を策定し、地区・PTA 要望として提出された、通学路危険箇所を警察、道路管理者、学校、地域の方々と点検を行い、改善等の対応をしている。 学校教育課としても「通学路」標識等の修繕、設置工事を実施している。 平成 29 年度設置枚数：3 ヶ所</p>			
事業の課題及び方向性	児童・生徒の安全確保については、関係機関等との連携を強化し、情報共有を行いながら推進していきます。			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.14	事務事業名： 小・中学校施設改修事業	H29 年度決算額	381,360 千円												
事業の目的	1. 学校教育法に基づき、小・中学校施設を整備する。 2. 国が示す耐震性能を確保し、安全な施設環境を提供する。 3. 老朽化した施設を改修し、健全な施設環境を提供する。															
事業内容	1. 屋内運動場の非構造部材の耐震化 2. 老朽化したトイレの改修 3. 校舎の長寿命化改良															
達成状況	1. 屋内運動場の非構造部材の耐震化 災害発生時に避難所となる体育館等の天井等の落下防止対策工事を行い、防災機能を強化した。平成 29 年度は計画していた 4 箇所を施工した。 <table border="1" data-bbox="429 692 1398 940"> <thead> <tr> <th>実施場所</th> <th>工事請負費</th> <th>主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三郷小学校 体育館</td> <td>33,480,000 円</td> <td rowspan="4"> ・ 吊り天井撤去 ・ 高天井照明の耐震化 ・ 高天井照明の LED 化 </td> </tr> <tr> <td>明南小学校 体育館</td> <td>41,461,000 円</td> </tr> <tr> <td>穂高西中学校 体育館</td> <td>91,800,000 円</td> </tr> <tr> <td>堀金中学校 体育館</td> <td>54,000,000 円</td> </tr> </tbody> </table> 2. トイレの改修 平成 29 年度におけるトイレ改修は、1 校を計画して施工した。 ○豊科北中学校トイレ改修工事（Ⅲ期） 工事請負費：66,960,000 円 3. 校舎の長寿命化改良 構造体等の長寿命化による、中長期的な維持管理等に係る経費縮減及び学校施設の機能・性能の向上を目的とした、長寿命改良工事を、新たに穂高南小学校で実施した。なお、本工事の工期は平成 32 年度まで 4 年間の予定。 ○穂高南小学校長寿命化改良工事（Ⅰ期） 工事請負費：59,190,000 円				実施場所	工事請負費	主な内容	三郷小学校 体育館	33,480,000 円	・ 吊り天井撤去 ・ 高天井照明の耐震化 ・ 高天井照明の LED 化	明南小学校 体育館	41,461,000 円	穂高西中学校 体育館	91,800,000 円	堀金中学校 体育館	54,000,000 円
実施場所	工事請負費	主な内容														
三郷小学校 体育館	33,480,000 円	・ 吊り天井撤去 ・ 高天井照明の耐震化 ・ 高天井照明の LED 化														
明南小学校 体育館	41,461,000 円															
穂高西中学校 体育館	91,800,000 円															
堀金中学校 体育館	54,000,000 円															
事業の課題及び方向性	体育館等の非構造部材耐震化工事については、学校の夏休みに工事が集中するなか、概ね計画どおりに実施することができ、体育館の吊り天井の耐震化は平成 30 年度に完了予定で、照明器具の落下防止工事などの吊り天井以外の耐震化は平成 31 年度に完了予定です。 豊科北中学校のトイレ改修工事は 3 年間の工事が完了し、清潔なトイレは生徒から高い評価を得ていますが、他校のトイレ改修が今後の課題である。 安曇野市内の小中学校 17 校のうち、7 校が既に築 40 年が経過し、老朽対策が課題となっている。改築（建替え）に係る国の補助金等の支援が見込めないことから、長寿命化改良工事を活用して学校施設の老朽化対策を実施していきます。															
自己評価	B															

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

事務事業	No.15	事務事業名： 給食事業	H29 年度決算額	304,260 千円
事業の目的	安曇野市学校給食理念（目標）に基づき、安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、地産地消及び食育の推進を図る。			
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 市内 17 の小・中学校に安全・安心で美味しい給食の提供 2 食育への取り組みと地産地消の推進 3 学校給食食材の安全確保の取り組み 4 学校給食費の徴収及び食材費支払い 			
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 市内 17 の小・中学校に安全・安心で美味しい給食の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 日の給食提供食数 約 8,550 食 ・ 年間の給食提供食数 約 1,710,000 食 ・ アレルギー対応食提供者数 45 人 2 食育への取り組みと地産地消の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月 1 回「安曇野の日」を設定し、地元食材を使用した献立の提供により地産地消を推進（年 12 回、4 センター共通） ・ 栄養教諭、栄養士等が学校訪問し、食育(栄養・食事のバランス・食の大切さ等)の実施（市内 17 校、314 クラス） ・ 給食だよりの発行（給食提供日全クラス数発行、4 センター共通） 3 学校給食食材の安全確保の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 市独自の放射線測定の実施（H23.11 月から） 全 315 食材（不検出） ・ 県への学校給食食材放射性物質検査の依頼（H24.4 月から各センター月 1 回） <p style="margin-left: 20px;">全 38 食材（不検出）</p> 4 学校給食費の徴収状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 口座振替登録率 99.34% ・ 給食費収納率 99.70%（前年比△0.04%） 			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 稼働から 10 年以上を経過（北部センター除く）し、厨房設備・施設等の修繕費が増加しています。食器の劣化が進み、入れ替えが必要です。学校給食費の収納率向上にむけて対策を強化します。</p> <p>【方向性】 安全・安心で栄養バランスのとれた給食を安定的に提供できるように管理運営を実施する。併せて、地元食材の使用拡大を進め地産地消推進と栄養教諭等の学校訪問を積極的に進め、食育の推進を図ります。</p>			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.16	事務事業名： 青少年健全育成事業	H29 年度決算額	13,669 千円
事業の目的	青少年が心身ともに健やかに育ち、社会の一員としての使命と役割に自覚をもって自立する力を育成する。			
事業内容	1 青少年健全育成環境整備事務 2 青少年体験事業 3 子ども会育成会支援事務			
達成状況	1 青少年センター事業 (1)市の青少年健全育成の拠点となる「青少年センター」の事業において、広報・啓発、青少年相談、街頭巡回、社会環境浄化活動に取り組んだ。 (2)広報・啓発活動では、日本と海外の子どもの生活の違いを知るパネルディスカッション「日本の子ども、外国の子ども、生活の違い」を開催、広報紙の発行、青少年相談活動として、学校教育課と連携した相談対応、街頭巡回活動として、長期休み中の5地域の街頭巡回、社会環境浄化活動として、有害図書・ビデオ等の自動販売機現地確認、また座禅による立ち直り支援活動を実施している「活禅寺北アルプス別院」の視察を行った。 2 青少年体験事業 (1)子どもの科学に対する探究心を深めるため、子どもから大人まで楽しめる、米村でんじろうサイエンスプロダクションによるサイエンスショーを10月8日に堀金総合体育館サブアリーナで開催し、約350人の来場があった。 (2)「子ども文化祭」を11月25日穂高交流学習センター「みらい」にて行った。ステージ発表の部8団体、展示の部4団体が参加し、参加者は約250人、来場者は約350人。 (3)子ども会育成会の小学校高学年生を対象にジュニアリーダー養成講座として、6月10日にレクレーション講座を安曇野市役所大会議室で、11月11日に三九郎組立講座を堀金中央公園で開催し、それぞれ28人と32人の児童が参加した。 (4)『まごころ工房』と題して、犬との触合いを通して命の大切さを学ぶ講座をはじめ、子どもたちが体験できる講座を年間6回開催し、100人の児童が参加した。 3 子ども会育成会支援 (1)地域での子ども達の自主的な活動を推進させ、また、地域育成会の活動の活発化を目的に子ども会育成会活動への補助を行った。 (2)基本補助金(平等割、均等割) 97 地区育成会 (補助金:4,672,750 円) (3)活性化補助金 44 地区育成会 (補助金:1,746,000 円) (4)安全共済会加入補助 8,176 人 (補助金:1,226,270 円)			
事業の課題及び方向性	ジュニアリーダーの養成講座について、実際の活動に繋がる事業展開に取り組みました。今後更に検討していきます。 地域子ども会育成会の活動を活発にするため、活性化補助金の更なる活用に向けて周知を図るとともに利用地区数の増加に努めたいと考えます。			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.17	事務事業名： 成人式実施事業	H29 年度決算額	3,801 千円																																												
事業の目的	<p>当該年、成人となる若者を一堂に迎えて祝福するとともに、新成人としての自覚と誇りをもって前進することを念願して、安曇野市成人式を挙げる。</p> <p>この祝典を通じて、特に社会参加と、明るく豊かな社会づくりへの積極的な意識・態度を養う契機とする。</p>																																															
事業内容	<p>記念写真撮影 記念式典 交流会</p>																																															
達成状況	<p>安曇野市で 12 回目となる成人式を開催した。平成 30 年の成人式は安曇野スイス村サンモリッツを会場に 1 月 7 日（日）の連休中日に挙行され、対象者 1,047 人のうち 775 人の出席があった。</p> <p>式典は進行等の役割を実行委員が行ない、来賓約 60 人に御臨席いただき厳正に執り行われ、市から記念品として「袱紗」と「記念写真」を贈った。記念写真は、出身中学校別に当時の恩師も含め撮影した。</p> <p>式典後は、実行委員会制作のフォトムービーを鑑賞し、懐かしい給食を味わいながら交流会が行われた。</p> <p>※安曇野市成人式の出席の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>出席者数</th> <th>対象者数</th> <th>出席率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>21</td><td>724</td><td>1,069</td><td>67.7</td></tr> <tr><td>22</td><td>764</td><td>1,041</td><td>73.4</td></tr> <tr><td>23</td><td>743</td><td>1,028</td><td>72.3</td></tr> <tr><td>24</td><td>765</td><td>1,049</td><td>72.9</td></tr> <tr><td>25</td><td>747</td><td>1,041</td><td>71.8</td></tr> <tr><td>26</td><td>716</td><td>979</td><td>73.1</td></tr> <tr><td>27</td><td>844</td><td>1,155</td><td>73.1</td></tr> <tr><td>28</td><td>761</td><td>1,028</td><td>74.0</td></tr> <tr><td>29</td><td>780</td><td>1,041</td><td>74.9</td></tr> <tr><td>30</td><td>775</td><td>1,047</td><td>74.0</td></tr> </tbody> </table>				年	出席者数	対象者数	出席率 (%)	21	724	1,069	67.7	22	764	1,041	73.4	23	743	1,028	72.3	24	765	1,049	72.9	25	747	1,041	71.8	26	716	979	73.1	27	844	1,155	73.1	28	761	1,028	74.0	29	780	1,041	74.9	30	775	1,047	74.0
年	出席者数	対象者数	出席率 (%)																																													
21	724	1,069	67.7																																													
22	764	1,041	73.4																																													
23	743	1,028	72.3																																													
24	765	1,049	72.9																																													
25	747	1,041	71.8																																													
26	716	979	73.1																																													
27	844	1,155	73.1																																													
28	761	1,028	74.0																																													
29	780	1,041	74.9																																													
30	775	1,047	74.0																																													
事業の課題及び方向性	<p>成人式は、対象者は近年 1,000 人前後を推移しており、出席率についてはここ数年 70%以上の高い水準を維持しています。今後も実行委員と実施内容を検討し、記念となる式典になるよう努めます。</p>																																															
自己評価	B																																															

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.18	事務事業名： 安曇野検定実施事業	H29 年度決算額	2,329 千円															
事業の目的	「合併後、他地域のことを知る機会がない。市として市民の一体感を醸成するには、お互いの地域を知る機会が不可欠である。」との市民の声から、平成 23 年度より『安曇野検定』を実施している。																		
事業内容	安曇野検定（一般の部、ジュニアの部） 安曇野検定準備講座（全 10 回） 図書「つなぐー安曇野の伝説ー」作成																		
達成状況	<p>○安曇野検定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>受検者</th> <th>合格者</th> <th>合格率</th> <th>※平成 28 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般の部</td> <td>55 人</td> <td>14 人</td> <td>25.5%</td> <td>基本編 45 人(合格者 42 人) 講座編 37 人(合格者 17 人)</td> </tr> <tr> <td>ジュニアの部</td> <td>288 人</td> <td>141 人</td> <td>49.0%</td> <td>241 人 (合格者 156 人)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※出題範囲 一般の部：安曇野検定準備講座（全 10 回）の内容から出題。 ジュニアの部：図書「つなぐー安曇野の伝説ー」の内容から出題。</p> <p>※合格基準 一般の部、ジュニアの部ともに 100 点満点中 70 点以上が合格</p> <p>○安曇野検定準備講座 安曇野ゆかりの人物を学ぶことで市の歴史や文化を深く知るための講座を全 10 回実施（①戦前日本航空界の英雄 飯沼正明、②長野県国会開設運動を導いた人 藤森寿平【前編】、③長野県国会開設運動を導いた人 藤森寿平【後編】、④貞享騒動とその時代 多田加助【前編】、⑤貞享騒動とその時代 多田加助【後編】、⑥郷土の彫刻家 小川大系、⑦郷土を愛した漆芸家 高橋節郎、⑧大河小説『安曇野』の作家 白井吉見【前編】、⑨大河小説『安曇野』の作家 白井吉見【後編】、⑩映画監督 熊井啓）、延べ 601 人が受講した。</p> <p>○図書「つなぐー安曇野の伝説ー」作成 子どもたちが過去から伝わる物語に触れ、昔の人々の生活や考えに思いを巡らし、郷土愛を育むため、記録に残る昔話を図書「つなぐー安曇野の伝説ー」として編纂し 500 部発行。小中学校や図書館等関係機関に配布した。また、小学校において読み聞かせの出前講座を行った。</p>				区分	受検者	合格者	合格率	※平成 28 年度	一般の部	55 人	14 人	25.5%	基本編 45 人(合格者 42 人) 講座編 37 人(合格者 17 人)	ジュニアの部	288 人	141 人	49.0%	241 人 (合格者 156 人)
区分	受検者	合格者	合格率	※平成 28 年度															
一般の部	55 人	14 人	25.5%	基本編 45 人(合格者 42 人) 講座編 37 人(合格者 17 人)															
ジュニアの部	288 人	141 人	49.0%	241 人 (合格者 156 人)															
事業の課題及び方向性	全国的にご当地検定の廃止・見直しがされるなか、安曇野検定でも一般の部については受検者が年々減少し、受検者の固定化も見られます。今後は、地域を知る機会としての目的はそのままに、市民ニーズが高い「安曇野のことを知る」ための講座のみへ転換し、内容の充実を図るよう進めます。また、受講者によるグループ結成促進や新たな講師の人材育成にも努めます。																		
自己評価	B																		

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

事務事業	No.19	事務事業名： 生涯学習講座実施事業	H29 年度決算額	1,264 千円												
事業の目的	安曇野市生涯学習推進計画に基づき、健康で豊かな生涯学習社会を実現する。															
事業内容	市民大学講座（特別編 1 回・信州大学編 5 回） 学校開放講座（13 講座 78 回） 日本語教室（原則毎週 1 回、4 会場） 日本語教室ボランティア講習会（2 回）															
達成状況	<p>○市民大学講座 特別編 会場：豊科公民館ホール 参加者 595 人 演題：「日本百名山、2 百名山踏破を語る」 講師：田中 陽希さん</p> <p>○市民大学講座信州大学編 会場：豊科交流学習センター 参加者延べ 279 人</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">演題</th> <th style="width: 50%;">講師名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州の気候と地球温暖化</td> <td>理学部 鈴木 啓助 教授</td> </tr> <tr> <td>花粉症と食物アレルギー —症状緩和の糸口とは？—</td> <td>農学部 片山 茂 准教授</td> </tr> <tr> <td>睡眠と健康 人はなぜ眠るのか —睡眠のメカニズム—</td> <td>医学部 藤本 圭作 教授</td> </tr> <tr> <td>錯覚の不思議な世界</td> <td>人文学部 菊池 聡 教授</td> </tr> <tr> <td>信濃の国におけるまちの起源と成長物語 —地域探究の楽しさを知る—</td> <td>教育学部 石澤 孝 教授</td> </tr> </tbody> </table> <p>○学校開放講座 参加者延べ 778 人 南安曇農業高等学校、豊科高等学校、穂高商業高等学校、明科高等学校、 豊科南中学校、穂高南小学校で実施</p> <p>○日本語教室 延べ 1,081 人 豊科、穂高、三郷及び堀金で原則毎週 1 回開催</p> <p>○日本語教室ボランティア講習会 延べ 22 人 日本語の教え方についての講習会を 2 回開催</p>				演題	講師名	信州の気候と地球温暖化	理学部 鈴木 啓助 教授	花粉症と食物アレルギー —症状緩和の糸口とは？—	農学部 片山 茂 准教授	睡眠と健康 人はなぜ眠るのか —睡眠のメカニズム—	医学部 藤本 圭作 教授	錯覚の不思議な世界	人文学部 菊池 聡 教授	信濃の国におけるまちの起源と成長物語 —地域探究の楽しさを知る—	教育学部 石澤 孝 教授
演題	講師名															
信州の気候と地球温暖化	理学部 鈴木 啓助 教授															
花粉症と食物アレルギー —症状緩和の糸口とは？—	農学部 片山 茂 准教授															
睡眠と健康 人はなぜ眠るのか —睡眠のメカニズム—	医学部 藤本 圭作 教授															
錯覚の不思議な世界	人文学部 菊池 聡 教授															
信濃の国におけるまちの起源と成長物語 —地域探究の楽しさを知る—	教育学部 石澤 孝 教授															
事業の課題及び方向性	広報紙やホームページへの掲載、ポスター掲示、チラシの配布などで周知に努めていますが、若年層の参加が少ないため、周知方法を工夫する必要があります。市民大学講座では、知名度がある講師を招いたり、世相を反映した講座を実施することで参加者が増加しました。今後も時代の潮流にあった事業展開をするとともに、幅広い世代のニーズを把握し、事業を企画するよう努めます。															
自己評価	B															

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.20	事務事業名： 社会教育団体支援事業	H29 年度決算額	2,187 千円																																																																																				
事業の目的	予算の範囲内で補助金を交付し、社会教育事業及び生涯学習事業の推進を図る。																																																																																							
事業内容	社会教育推進事業及び芸術文化協会の運営への補助金交付																																																																																							
達成状況	<p>○安曇野市社会教育事業補助金交付要綱による社会教育推進団体への補助金</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>交付先</th> <th>補助金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安曇野市連合婦人会</td> <td>90,000 円</td> </tr> <tr> <td>安曇野市太鼓連盟</td> <td>200,000 円</td> </tr> <tr> <td>安曇野市鈴虫を育てる会</td> <td>40,000 円</td> </tr> <tr> <td>安曇野市囲碁・将棋大会</td> <td>93,670 円</td> </tr> <tr> <td>芸術文化協会</td> <td>1,763,200 円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,186,870 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>各種団体での社会教育事業及び地域芸術文化協会の運営は円滑に行われ、適正に遂行されていた。</p> <p>参考：芸術文化協会の状況（会員数） (人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>比較 (22 : 29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊科</td> <td>430</td> <td>394</td> <td>374</td> <td>355</td> <td>353</td> <td>309</td> <td>281</td> <td>273</td> <td>△157</td> </tr> <tr> <td>穂高</td> <td>672</td> <td>672</td> <td>575</td> <td>548</td> <td>517</td> <td>500</td> <td>572</td> <td>647</td> <td>△25</td> </tr> <tr> <td>三郷</td> <td>467</td> <td>431</td> <td>417</td> <td>368</td> <td>361</td> <td>405</td> <td>421</td> <td>418</td> <td>△49</td> </tr> <tr> <td>堀金</td> <td>340</td> <td>293</td> <td>276</td> <td>291</td> <td>277</td> <td>280</td> <td>257</td> <td>236</td> <td>△104</td> </tr> <tr> <td>明科</td> <td>226</td> <td>218</td> <td>217</td> <td>250</td> <td>240</td> <td>240</td> <td>240</td> <td>240</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,135</td> <td>2,008</td> <td>1,859</td> <td>1,812</td> <td>1,748</td> <td>1,734</td> <td>1,771</td> <td>1,814</td> <td>△321</td> </tr> </tbody> </table>				交付先	補助金額	安曇野市連合婦人会	90,000 円	安曇野市太鼓連盟	200,000 円	安曇野市鈴虫を育てる会	40,000 円	安曇野市囲碁・将棋大会	93,670 円	芸術文化協会	1,763,200 円	合計	2,186,870 円	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	比較 (22 : 29)	豊科	430	394	374	355	353	309	281	273	△157	穂高	672	672	575	548	517	500	572	647	△25	三郷	467	431	417	368	361	405	421	418	△49	堀金	340	293	276	291	277	280	257	236	△104	明科	226	218	217	250	240	240	240	240	14	合計	2,135	2,008	1,859	1,812	1,748	1,734	1,771	1,814	△321
交付先	補助金額																																																																																							
安曇野市連合婦人会	90,000 円																																																																																							
安曇野市太鼓連盟	200,000 円																																																																																							
安曇野市鈴虫を育てる会	40,000 円																																																																																							
安曇野市囲碁・将棋大会	93,670 円																																																																																							
芸術文化協会	1,763,200 円																																																																																							
合計	2,186,870 円																																																																																							
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	比較 (22 : 29)																																																																															
豊科	430	394	374	355	353	309	281	273	△157																																																																															
穂高	672	672	575	548	517	500	572	647	△25																																																																															
三郷	467	431	417	368	361	405	421	418	△49																																																																															
堀金	340	293	276	291	277	280	257	236	△104																																																																															
明科	226	218	217	250	240	240	240	240	14																																																																															
合計	2,135	2,008	1,859	1,812	1,748	1,734	1,771	1,814	△321																																																																															
事業の課題及び方向性	社会教育事業を推進するため、関係団体や各種事業の要望を把握するとともに従来事業の内容精査、自立を促します。																																																																																							
自己評価	C																																																																																							

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.21	事務事業名： 放課後・家庭教育推進費	H29 年度決算額	7,387 千円																																																																														
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の子どもの居場所として学校の施設を使用し、1年生から6年生までの異年齢の子どもが交じりあい、十分に遊び、さらに地域の人たちと関わることで、たくましさや社会性を養う。 子どもが健やかに成長できるよう家庭教育の支援を行い、社会性のある自立した子どもを育てる。 																																																																																	
事業内容	1 放課後子ども教室実施事業 2 家庭教育支援事業																																																																																	
達成状況	1 放課後子ども教室推進事業 放課後の児童の安全安心な居場所として、また、異年齢間の交流を図り、様々な体験や遊びを通じ、地域の大人の見守りの中で、思い切り遊ぶ機会を確保するため、10小学校の施設を利用して、週1回の放課後子ども教室「わいわいランド」を開催した。 <table border="1" data-bbox="486 833 1339 1523"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>コード イネー ター</th> <th>教育活 動サポ ーター</th> <th>登録児 童数</th> <th>開催日 数</th> <th>延べ出席 人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>豊科南</td><td>2</td><td>13</td><td>77</td><td>28</td><td>1,523</td></tr> <tr><td>豊科北</td><td>2</td><td>14</td><td>97</td><td>30</td><td>2,061</td></tr> <tr><td>豊科東</td><td>2</td><td>13</td><td>53</td><td>34</td><td>1,208</td></tr> <tr><td>穂高南</td><td>2</td><td>21</td><td>133</td><td>34</td><td>3,178</td></tr> <tr><td>穂高北</td><td>2</td><td>22</td><td>146</td><td>33</td><td>3,430</td></tr> <tr><td>穂高西</td><td>2</td><td>12</td><td>79</td><td>33</td><td>2,082</td></tr> <tr><td>三 郷</td><td>2</td><td>21</td><td>139</td><td>35</td><td>3,911</td></tr> <tr><td>堀 金</td><td>2</td><td>16</td><td>143</td><td>33</td><td>2,739</td></tr> <tr><td>明 南</td><td>2</td><td>14</td><td>58</td><td>33</td><td>1,305</td></tr> <tr><td>明 北</td><td>2</td><td>15</td><td>43</td><td>32</td><td>1,109</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>20</td><td>161</td><td>968</td><td>325</td><td>22,546</td></tr> <tr><td>H28 年度</td><td>20</td><td>144</td><td>917</td><td>312</td><td>24,986</td></tr> </tbody> </table> 2 家庭教育支援事業 子育てが楽しくなる、撮影技術を学んで実際にわが子を撮影してみる、子どもの写真の撮り方講座を2回開催し、東ロビーで作品展示を行った。				学校名	コード イネー ター	教育活 動サポ ーター	登録児 童数	開催日 数	延べ出席 人数	豊科南	2	13	77	28	1,523	豊科北	2	14	97	30	2,061	豊科東	2	13	53	34	1,208	穂高南	2	21	133	34	3,178	穂高北	2	22	146	33	3,430	穂高西	2	12	79	33	2,082	三 郷	2	21	139	35	3,911	堀 金	2	16	143	33	2,739	明 南	2	14	58	33	1,305	明 北	2	15	43	32	1,109	合 計	20	161	968	325	22,546	H28 年度	20	144	917	312	24,986
学校名	コード イネー ター	教育活 動サポ ーター	登録児 童数	開催日 数	延べ出席 人数																																																																													
豊科南	2	13	77	28	1,523																																																																													
豊科北	2	14	97	30	2,061																																																																													
豊科東	2	13	53	34	1,208																																																																													
穂高南	2	21	133	34	3,178																																																																													
穂高北	2	22	146	33	3,430																																																																													
穂高西	2	12	79	33	2,082																																																																													
三 郷	2	21	139	35	3,911																																																																													
堀 金	2	16	143	33	2,739																																																																													
明 南	2	14	58	33	1,305																																																																													
明 北	2	15	43	32	1,109																																																																													
合 計	20	161	968	325	22,546																																																																													
H28 年度	20	144	917	312	24,986																																																																													
事業の課題及び方向性	放課後子ども教室は、昨年と比べ延べ参加人数が若干減少しましたが、引き続き安全運営及びスタッフの確保に努め実施していきます。																																																																																	
自己評価	C																																																																																	

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.22	事務事業名： 児童館運営事業	H29年度決算額	192,657 千円
事業の目的	国の地域子育て支援拠点事業、放課後児童健全育成事業を推進するため、また子育て支援の充実を図るため、児童館、児童クラブの運営及び施設整備を行う。			
事業内容	市内 9ヶ所の児童館の運営、市内 11ヶ所（穂高西小、三郷小空き教室含む）の児童クラブの運営を、指定管理者である安曇野市社会福祉協議会に委託し、子育て支援事業、子育て相談事業、地域ふれあい事業、青少年育成事業、放課後児童健全育成事業等の事業を実施する。			
達成状況	<p>1 児童館実施事業</p> <p>(1) 子育て支援事業 「キッズパーク」、「みんなあつまれ」、「お下がり会」</p> <p>(2) 子育て相談事業 「育児相談」、「子育て勉強会」</p> <p>(3) 地域ふれあい事業 「ふれあい農園」、「地域ボランティア」「児童館祭り」</p> <p>(4) 青少年育成事業 「チャレンジタイム」、「お楽しみ企画」</p> <p>(5) 放課後児童健全育成事業 「児童クラブ」、「障がい児児童クラブ」</p> <p>2 児童館来館者数 91,581 人（児童クラブ利用者数を含まない）</p> <p>3 児童クラブ事業</p> <p>(1) 児童クラブ定員 通年 694 人、長期 342 人、合計 1,036 人</p> <p>(2) 児童クラブ登録者 通年 556 人、長期 399 人、合計 955 人（最多時）</p> <p>(3) 延べ利用者数 97,978 人（平成 28 年度延べ利用者数 88,641 人）</p> <p>(4) 平成 29 年 4 月 1 日より、穂高西小学校内において余裕教室を利用して児童クラブを実施している。</p> <p>また、平成 29 年度は南穂高児童クラブ 30 人、穂高南小児童クラブ 14 人の通年定員の拡充を図った。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>児童クラブ事業は、利用のニーズが増加により 6 年生までの利用拡大の検討や、小学校の余裕教室等の活用も含め施設整備を進める必要があります。</p> <p>児童館・児童クラブ事業は、平成 25 年度から指定管理により運営を行っていますが、一層の子育て支援サービスの充実を図るために、今後も指定管理者との協議を密にし、事業の在り方等を検討していきます。</p>			
自己評価	C			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.23	事務事業名： 中央公民館事業	H29年度決算額	36,455 千円
事業の目的	<p>地域の社会教育機関として、社会教育法第 20 条で定める「市民の生活文化の進行と社会福祉の増進に寄与する」ため、『安曇野市公民館の理念』の下、安曇野市公民館を運営した。</p> <p>【—安曇野市公民館の理念（平成 27 年 10 月 26 日制定）—】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域づくりを地区公民館とともに進めます。 2 地域のつなぎ役として、各種団体と連携し交流を進めます。 3 事業の継続性を大事にしながら、時代に即したものに発展させます。 4 市民に最も身近な生涯学習活動の場を提供します。 			
事業内容	<p>公民館運営審議会の運営 公民館長会・公民館担当者会議の運営 安曇野市公民館大会の開催 安曇野市公民館報の発行 安曇野市総合芸術展の開催 各 5 分館における講座等の開催 地区公民館活動及び建設補助金の交付</p>			
達成状況	<p>○「安曇野市公民館大会」を 5 月 21 日に開催し、約 300 人が参加した。功労者・地区公民館報表彰、事例発表を野沢地区公民館が、また「群がりづくり～やっちゃえ！公民館～」と題して、脚本・演出家の丸田 勉さんによる講演を行なった。</p> <p>○安曇野市公民館報は市民 5 人の編集委員の協力により、地域で活躍しているリーダーやグループ、地区公民館の活動紹介などの記事を掲載し、6 回発行した。</p> <p>○「安曇野市総合芸術展」を 3 月 7 日から 20 日にかけて、豊科交流学習センター「きぼう」で開催し、絵画・写真・彫刻などの分野から 104 点を展示し、観覧者数は延べ 963 人であった。</p> <p>○各 5 分館における講座等の開催 豊科、穂高、三郷、堀金、明科の 5 分館において、ふるさと講座や地場産食材を使った料理教室など各地域の特徴を活かした講座を実施した。</p> <p>○地区公民館活動補助金として、98 地区公民館へ計 30,825,000 円と、地区公民館建設補助金を 1 地区公民館に 1,766,666 円の補助を行い、地区公民館を支援した。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>「安曇野市公民館の理念」の下、各公民館の運営体制の統一を図るため、館長会や担当者会議で情報を共有しながら、随時調整を行っていく必要があります。</p>			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.24	事務事業名： 交流学习センター等事業	H29年度決算額	6,654千円
事業の目的	市民の「交流の場」「学習の場」、さらには地域交流の拠点として、市民が参加し活発に利用されるよう、安曇野市穂高交流学习センター、安曇野市豊科交流学习センター、安曇野市三郷交流学习センター、安曇野市明科学習館の4施設の適正かつ円滑に管理運営を行う。			
事業内容	生涯学習推進計画及び文化振興計画の実現のため、次代の文化活動の担い手の育成や、親子で参加できる体験・学習できるような文化活動等による教育の機会の充実を図るとともに、文化芸術の鑑賞の機会と創作活動・発表の場の提供として、自主文化事業、貸館業務のほか、各種団体等との共催事業にも取り組みを行った。			
達成状況	<p>○主な自主事業</p> <p>1 あづみの新進音楽家公開オーディション、選考された者によるコンサート</p> <p>(1)第7回あづみの新進音楽家公開オーディション 開催日7月29日(土) 参加者 ジュニアの部13組15人 一般の部3組4人</p> <p>(2)選考された者によるコンサート</p> <p>ア ウィンターコンサート 開催日12月16日(土) 参加者 3組4人 入場者155人</p> <p>イ 第3回あづみジュニアクラシックコンサート 開催日3月24日(土) 参加者8組12人 入場者130人</p> <p>2 熊井啓監督顕彰事業 熊井啓監督没後10周年記念企画「お吟さま」上映会・熊井明子氏講演会 開催日2月3日(土) 入場者 午前の部175人 午後の部177人</p> <p>3 三郷交流学习センター開館記念コンサート</p> <p>(1)viva!プラス!!東京吹奏楽団ファミリーコンサート 開催日3月10日(土) 入場者 315人</p> <p>(2)viva!プラス!!東京吹奏楽団スプリングコンサート 開催日3月11日(日) 入場者165人</p> <p>4 安曇野スタイル2017(共催事業) 開催期日11月2日(木)から5日(日) 安曇野スタイル2017の開催に合わせ、インフォメーションとして参加作家の作品を展示</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】</p> <p>三郷交流学习センター開館記念事業は、チケットが完売となり好評を得ました。あづみの新進音楽家公開オーディション一般の部の参加者や、アンサンブル藝弦コンサートの入場者数が減少傾向にあります。</p> <p>【方向性】</p> <p>自主事業の内容の充実と周知方法を検討し、より多くの市民に優れた文化芸術を提供します。</p>			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.25	事務事業名： 図書館活動の推進事業	H29年度決算額	164,892千円																																																																																																						
事業の目的	市民へ質の高い情報を提供できる「学習センター」、「情報センター」、「文化センター」として多様化する市民の「学び」のニーズに応える図書館の確立を進めている。																																																																																																									
事業内容	1 新鮮な資料や最新の情報の市民への提供 2 さまざまな「学び」の場としての図書館サービスの充実 3 「地域の教育力」を高める活動の推進 4 図書館利用に障がいのある方々への支援 5 安曇野市の歴史文化の伝承 6 市民の調査・研究支援体制の強化援助																																																																																																									
達成状況	1 図書館基本計画（平成21年9月策定）のサービス目標値と平成29年度末の状況 (1) 全館 <table border="1" data-bbox="459 862 1391 1070"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>個人登録率</th> <th>市民1人あたりの貸出点数</th> <th>団体登録数</th> <th>蔵書総点数</th> <th>年間利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>39.5%</td> <td>5.6</td> <td>150</td> <td>400,000</td> <td>280,000</td> </tr> <tr> <td>H29年度末</td> <td>44.5%</td> <td>7.7</td> <td>213</td> <td>415,533</td> <td>205,944</td> </tr> </tbody> </table> <p>※人口：98,073人（平成30年4月1日現在）</p> (2) 館別 <table border="1" data-bbox="475 1167 1391 1868"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>個人貸出点数</th> <th>団体貸出点数</th> <th>予約件数</th> <th>レファレンスサービス件数</th> <th>総蔵書点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中央</td> <td>目標値</td> <td>215,000</td> <td>28,000</td> <td>3,800</td> <td>250</td> <td>200,000</td> </tr> <tr> <td>H29年度末</td> <td>477,488</td> <td>9,907</td> <td>13,163</td> <td>2,049</td> <td>207,847</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">豊科</td> <td>目標値</td> <td>160,000</td> <td>3,100</td> <td>3,500</td> <td>150</td> <td>65,000</td> </tr> <tr> <td>H29年度末</td> <td>155,476</td> <td>8,525</td> <td>7,262</td> <td>1,413</td> <td>84,022</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">三郷</td> <td>目標値</td> <td>86,000</td> <td>1,700</td> <td>3,200</td> <td>100</td> <td>53,000</td> </tr> <tr> <td>H29年度末</td> <td>36,176</td> <td>2,036</td> <td>2,113</td> <td>331</td> <td>39,019</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">堀金</td> <td>目標値</td> <td>45,000</td> <td>900</td> <td>2,000</td> <td>50</td> <td>41,000</td> </tr> <tr> <td>H29年度末</td> <td>59,333</td> <td>3,411</td> <td>3,383</td> <td>28</td> <td>36,034</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">明科</td> <td>目標値</td> <td>54,000</td> <td>900</td> <td>2,700</td> <td>50</td> <td>41,000</td> </tr> <tr> <td>H29年度末</td> <td>29,965</td> <td>3,430</td> <td>2,361</td> <td>1,043</td> <td>48,611</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>目標値</td> <td>560,000</td> <td>34,600</td> <td>15,200</td> <td>600</td> <td>400,000</td> </tr> <tr> <td>H29年度末</td> <td>760,053</td> <td>27,309</td> <td>28,282</td> <td>4,864</td> <td>415,533</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 目標値は、中央・明科は、平成26年度、その他は、整備後5年以内</p>				項目	個人登録率	市民1人あたりの貸出点数	団体登録数	蔵書総点数	年間利用者数	目標値	39.5%	5.6	150	400,000	280,000	H29年度末	44.5%	7.7	213	415,533	205,944	項目	個人貸出点数	団体貸出点数	予約件数	レファレンスサービス件数	総蔵書点数	中央	目標値	215,000	28,000	3,800	250	200,000	H29年度末	477,488	9,907	13,163	2,049	207,847	豊科	目標値	160,000	3,100	3,500	150	65,000	H29年度末	155,476	8,525	7,262	1,413	84,022	三郷	目標値	86,000	1,700	3,200	100	53,000	H29年度末	36,176	2,036	2,113	331	39,019	堀金	目標値	45,000	900	2,000	50	41,000	H29年度末	59,333	3,411	3,383	28	36,034	明科	目標値	54,000	900	2,700	50	41,000	H29年度末	29,965	3,430	2,361	1,043	48,611	合計	目標値	560,000	34,600	15,200	600	400,000	H29年度末	760,053	27,309	28,282	4,864	415,533
項目	個人登録率	市民1人あたりの貸出点数	団体登録数	蔵書総点数	年間利用者数																																																																																																					
目標値	39.5%	5.6	150	400,000	280,000																																																																																																					
H29年度末	44.5%	7.7	213	415,533	205,944																																																																																																					
項目	個人貸出点数	団体貸出点数	予約件数	レファレンスサービス件数	総蔵書点数																																																																																																					
中央	目標値	215,000	28,000	3,800	250	200,000																																																																																																				
	H29年度末	477,488	9,907	13,163	2,049	207,847																																																																																																				
豊科	目標値	160,000	3,100	3,500	150	65,000																																																																																																				
	H29年度末	155,476	8,525	7,262	1,413	84,022																																																																																																				
三郷	目標値	86,000	1,700	3,200	100	53,000																																																																																																				
	H29年度末	36,176	2,036	2,113	331	39,019																																																																																																				
堀金	目標値	45,000	900	2,000	50	41,000																																																																																																				
	H29年度末	59,333	3,411	3,383	28	36,034																																																																																																				
明科	目標値	54,000	900	2,700	50	41,000																																																																																																				
	H29年度末	29,965	3,430	2,361	1,043	48,611																																																																																																				
合計	目標値	560,000	34,600	15,200	600	400,000																																																																																																				
	H29年度末	760,053	27,309	28,282	4,864	415,533																																																																																																				

事業の課題及び方向性	<p>1 課題</p> <p>平成 30 年 3 月に三郷図書館がリニューアルオープンし、市内図書館の整備が終了しました。市民アンケートでは、公共図書館を利用する市民の割合は約半数という結果ですが、図書館に足を運んでくれるきっかけづくりとして、イベントや講座などソフト事業の充実を図るとともに、図書館活動の周知を図るため、マスコミへの情報提供や広報誌への掲載、ホームページやツイッターなど様々な媒体による情報発信が必要です。</p> <p>2 方向性</p> <p>第 2 次図書館基本計画の基本方針に基づき、ソフト事業を中心とした図書館運営の充実を図ります。また、複合施設である市の図書館の特徴を生かし、交流学习センター等と連携した図書館サービスの提供や、各図書館の地域性を生かした特色ある蔵書、運営について検討する必要があります。</p>
自己評価	B

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.26	事務事業名： 人権教育推進事業	H29 年度決算額	2,067 千円
事業の目的	安曇野市人権教育・啓発推進計画の基本目標と基本方針に基づき、人権問題の現状と課題に対し、あらゆる場を通じた人権教育・啓発を推進する。			
事業内容	人権教育推進委員会・人権教育指導員合同会議運営 企業人権教育推進協議会の運営 地域人権教育推進協議会、学社連携事業、地区人権学習会支援			
達成状況	<p>安曇野市人権教育・啓発推進計画に基づき、人権教育の推進に向けて全市的に啓発事業に取り組むとともに、各地域の人権教育推進協議会等と地区公民館での取り組みを推進した。</p> <p>○全市的取り組み 学校、地域、家庭、職場が一体となった人権教育推進に向けて人権教育推進委員会小委員会、人権教育推進委員及び人権教育指導員の合同会議をそれぞれ2回開催し、合同会議では、研修として講演会を実施した。</p> <p>企業人権教育推進協議会は設立8年目となり、31 企業 53 事業所が加入しています（H30.2月現在）。本年度は総会、理事会に加え、2回の啓発講演会を実施した。</p> <p>○各地域の取り組み 人権教育推進協議会の開催のほか学社連携事業として、小中学校人権教育推進協議会と連携し、地域ごとに人権教育推進委員・指導員が授業参観、講演会、懇談会などへ参加した。</p> <p>また、地区公民館での人権学習会開催を支援し、地区の現状に応じて扱いやすいテーマで98 全ての地区公民館で実施され、高齢者、女性、子どもの人権などの人権問題について幅広い学習が行われた。</p>			
事業の課題及び方向性	安曇野市人権教育・啓発推進計画の基本目標と基本方針に基づき、人権問題の現状と課題に対し、あらゆる場を通じた人権教育・啓発を継続的に推進する必要があります。			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.27	事務事業名： 人権啓発事業	H29年度決算額	1,888千円
事業の目的	<p>市内小学校（10校）の4年生が共通の体験を積み、安曇野に対する郷土愛や児童同士の絆を深め、人権について学習することを目的に「安曇野市 1/2 成人記念 人権・平和特別授業～kizuki～」を開催した。</p> <p>また、人権尊重に対する意識を高めるため、「安曇野市人権尊重作文集～kiseki～」の作成に取り組みを行った。</p>			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市 1/2 成人記念 人権・平和特別授業～kizuki～ 市歌斉唱 児童発表「私たちの平和なふるさと安曇野」 ミュージカル「オズの魔法使い」（劇団ポプラ）鑑賞 ・安曇野市人権尊重作文集～kiseki～ 人権尊重作文集の作成・配布 			
達成状況	<p>○市歌斉唱 各学校において事前に練習を行い、当日は 840 人の児童が声を合わせて市歌を斉唱した。</p> <p>○児童発表「私たちの平和なふるさと安曇野」 「みんなが笑顔になるために」をテーマに各学校で取り組んでいる活動を発表しました。あいさつ運動や姉妹学級の交流、名前を大切にしている活動など、他の学校の取り組みを聞くことができ、児童にとって良い学習になった。</p> <p>○ミュージカル「オズの魔法使い」の鑑賞 オズの魔法使いは、冒険を通して故郷とそこで暮らす人々を想う心や考える力、優しい心などに気付くストーリーとなっており、子どもたちの感想文には、「家族や友だちとの絆を深めたい」「人の気持ちを考えていけるよう努力したい」「自分に自信を持ちたい」などの感想があり、子どもたちに多くの気付きがあった。</p> <p>○人権尊重作文集の作成・配布 安曇野市人権尊重作文集～kiseki～は、市内小学校3年生から中学校3年生の各学年から2～4作品を選考（小学4年生は1校1作品）し、合計 27 作品を掲載した。各学校・図書館・人権教育推進委員・各地区人権教育推進委員に配布し、人権教育の教材・資料として役立てることができた。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>平成 28 年度からミュージカル上演が可能な施設である豊科公民館ホールで実施していますが、収容人数が限られているため5校ずつ2回に分けて実施しています。市内 10 校の4学年全児童が一堂に会せるよう事業内容の見直しを図る必要があります。</p>			
自己評価	A			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.28	事務事業名： 体育団体等支援事業	H29 年度決算額	11,518 千円
事業の目的	市民のスポーツ振興、健康体力づくりの推進、競技力向上などの活動に対する支援を目的に、体育協会及びスポーツ少年団の活動に対して助成する。また、全国大会以上のスポーツ等の大会に出場する個人・団体に激励金を交付する。			
事業内容	①体育協会に対しては対象事業費の2分の1以内で予算の範囲内の助成 ②スポーツ少年団に対しては、対象事業費の3分の2以内で予算の範囲内の助成 ※いずれも「安曇野市社会教育事業補助金交付要綱」による			
達成状況	<p>数値目標（安曇野市スポーツ振興計画 25 ページより）</p> <p>体育協会加入者数 平成 29 年度末：8,000 人</p> <p>※スポーツ少年団の目標数値はない。</p> <p>(1)体育協会への支援 登録者数：6,216 人 補助額：6,200 千円</p> <p>(2) スポーツ少年団への支援 登録者数：1,877 人 補助額：4,092 千円</p> <p>(3)各種競技会及び発表会出場者激励金 件数：107 件 激励金総額：1,226 千円 (内訳：全国大会：105 件、世界大会：2 件)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>体育協会については、団体離れする中で、4年間ほぼ横這いから登録者数となっています。中核的なスポーツ振興を担う体育協会は、市民スポーツの活性化に重要な役割を果たしているため、今後も協議しながら事業内容に合った適正な補助金額の支出が必要と考えます。</p> <p>また、全国大会以上の競技出場者が増加する一方、スポーツ少年団の指導者の高齢化やなり手不足の現状から、指導者の増加に向け、資格取得の支援や研修会などの指導者の育成に対する取り組みが必要です。</p>			
自己評価	C			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.29	事務事業名： 市民スポーツ祭	H29年度決算額	1,500千円
事業の目的	市民スポーツを通して交流を深め、安曇野市民としての連帯感を共有するとともに、スポーツの普及振興を図ることを目的として、実行委員会に運営を委託する。			
事業内容	(1)総合開会式（誰もがスポーツに親しむことができる体験種目・スポーツ交流会及び体力測定）の開催 (2) 17 の種目別競技会			
達成状況	<p>平成 22 年度から始まった「市民スポーツ祭」も、第 8 回目の開催となり、日頃の練習の成果の場としての競技力向上やスポーツの親睦が図られた。また、5 種目のスポーツ体験及び体力測定を通じて、自己の体力・運動能力を知り、スポーツの楽しみを体験しながら、興味・関心を持つきっかけの助長となった。</p> <p>(1) 総合開会式 6 月 25 日(日) 堀金総合体育館 約 530 人参加 ・総合開会式：市歌斉唱、市歌体操の実施 安曇野市スポーツ大使に委嘱した、有森裕子さんのビデオメッセージ放映 ・スポーツ交流会(ニュースポーツ：5 種目)と体力測定</p> <p>(2) 種目別競技会 6～12 月まで 述べ 2,701 人参加</p> <p>※目標数値等はない。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>市民スポーツ開始から 8 年を経過し、当初からの目的である市民スポーツの一体感の醸成は一定の効果が出ています。</p> <p>しかし、開催競技種目が固定化(マンネリ化)されており、参加者数もほぼ横這い状態であることから、運営方法等の今後の方向性を実行委員会の中で検討し、多くの方が参加できる内容の充実を図ることが必要と思われます。</p>			
自己評価	C			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.30	事務事業名： 新総合体育館建設事業（H28～32）	H29年度決算額	50,537千円
事業の目的	<p>安曇野地域合併協議会の合意項目にも上げられ、新市で調整することとなっていた、豊科南部総合公園屋内運動施設や「公共施設白書」に盛り込まれている公共施設の統合・再整理等を検討する中で、市内だけでなく市外や県外からの利用を想定し、規模の大きな大会にも利用が可能となる施設の整備を重点に、平成27年6月に「公式スポーツ施設整備計画」を策定した。</p> <p>この計画の趣旨及び基本方針を基に、豊科南部総合公園に新総合体育館を、合併特例債の期限である平成32年度までに整備する事を目的とした事業である。</p>			
事業内容	<p>豊科南部総合公園計画区域変更（都市計画決定変更） 拡張面積 A=2.9ha 用地取得 A=約 2.8ha 新総合体育館建設 延床面積（屋内）A=約 7,300 m² 駐車場等外構整備</p>			
達成状況	<p>現地測量実施（地形図作成） 用地測量実施（境界確認、分筆図作成） 地質調査実施（機械土質ボーリングΣL=92.0m、土質試験一式） 基本設計完了</p> <p>基本設計業務委託について、安曇野市新総合体育館建設基本設計者審査検討委員会を設置し、プロポーザルにて選定した大建・エーアンドエー安曇野市新総合体育館建設設計共同企業体と9月に契約を締結した。市民ワークショップ、市民説明会等を経て3月に基本設計が完了した。</p> <p>基本設計の概要 施設規模：延床面積（屋内）約 7,300 m² 主要施設：メイン・サブアリーナ、柔剣道場、トレーニング室兼多目的利用室 付帯施設：会議室、幼児体育室、更衣・シャワー室、事務室、放送室等 外構：駐車場、ふらっとひろば、多目的ひろば、ウォームアップひろば、スケートボードひろば</p>			
事業の課題及び方向性	<p>計画の実現に向けては、次のような点が重点項目となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に親しまれ、多くの人に利用いただけるような体育館を建設すること。 ・スポーツだけでなく、市民交流、健康長寿、防災などの利活用。 ・合併特例債の発行期限である平成32年度末までに事業を完了すること ・財源の確保 ・法規制への対応(都市計画法、都市公園法、農地法等) ・関係者、地元等の合意形成 ・拡張用地取得 <p>平成30年度中に用地取得及び実施設計を取りまとめる予定。</p>			
自己評価	C			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。 D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.31	事務事業名： スポーツ振興事業（スポーツ教室等開催事業）	H29年度決算額	7,168 千円
事業の目的	<p>運動をするきっかけづくりのための教室や、その後の継続性を高めるためのサークル化に向けた支援などを行い、スポーツ実施率*の向上を目指す。</p> <p>また、幼児期の体力向上に向けた取り組みとして、市内保育園の 18 園に講師を派遣し、コーディネーショントレーニングを実施する。</p> <p>※スポーツ実施率：過去 1 年間に週に 1 回以上、運動・スポーツを行った成人の割合</p>			
事業内容	<p>① 子どもや親子を対象にした主な教室 （親子ウキウキ体操教室、わんぱく GYM、アーチェリー、スラックライン など）</p> <p>② 成人を対象にした主な教室 （スポーツ吹矢、エアロビクス系の教室、ニュースポーツ、インターバル速歩、ウェーブリングストレッチ、ポールウォーキング など）</p> <p>③ 平衡感覚や運動神経が発達する幼少期の運動能力向上を目的としたコーディネーショントレーニングの推進 （幼保派遣事業・キッズ教室・学ぶ会）</p>			
達成状況	<p>(1)スポーツ教室の開催 定員数 1,926 人の教室を開催し、延べ 12,887 人の参加があり、年々参加者が増加しているとともに、全教室の平均出席率は約 88%と、前年度から 9%程度上昇し参加者も意欲的であった。 また、全教室でアンケートを実施し、参加者の状況や継続したスポーツへの意欲等を把握し、次年度の計画の資料とした。</p> <p>(2)コーディネーショントレーニングの開催 幼保派遣事業(市内 18 園) 回数：122 回 参加者：述べ 6,811 人 キッズ教室 回数：60 回 参加者：述べ 263 人 学ぶ会 回数：1 回 参加者：31 人 ※教室終了後、自主活動サークルへ移行した団体：4 団体</p>			
事業の課題及び方向性	<p>アンケートで希望の多かったスポーツ教室の導入や継続しやすい初心者向けのスポーツに配慮し、市民ニーズにあった教室を開催しました。また、教室の開催時期・託児所の配置など教室の参加しやすい環境づくりや、教室の申し込みの 24 時間受付可能な電子サービスを導入するなど利便性を図り、効果的かつ効率的な教室運営に努めました。</p> <p>コーディネーショントレーニング事業の保育園への派遣は定着しつつありますが、講師不足が課題であるため、指導者の確保について検討が必要です。</p>			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.32	事務事業名： 文化芸術振興事業	H29 年度決算額	5,119 千円
事業の目的	<p>子どもや高齢者、障がいのある人など、全ての市民がすぐれた文化芸術に接することができるよう、展覧会やコンサートなどの内容を充実するとともに鑑賞しやすい環境づくりを進める。</p> <p>市民の文化芸術活動が、文化芸術を受容鑑賞するだけでなく、創作や発表へと発展し自己実現を図ることができる環境づくりを推進する。</p>			
事業内容	<p>「文化振興計画」に掲げられた諸施策の実現に向け諸事業を実施した。</p> <p>(1) 東京藝術大学との交流事業の開催 第1回：6月2日(金) 第2回：11月4日(土)・5日(日) 第3回：2月3日(土)・4日(日) 小中学校合同吹奏楽祭：10月7日(日)</p> <p>(2) 能楽教室の開催 6月27日(火)：三郷中学校 6月28日(水)：穂高西小学校</p> <p>(3) 文化講演会の開催 テーマ「発酵と微生物の神秘」 (講師：小泉武夫氏) 12月17日(日)</p>			
達成状況	<p>(1) 東京藝術大学との交流事業 参加生徒数 241 人 (目標 150 人) 合同コンサート来場者数 289 人 (目標 400 人) 小中学校合同吹奏楽祭：1,780 人</p> <p>(2) 能楽教室 鑑賞者数 995 人</p> <p>(3) 文化講演会 来場者数 450 人</p>			
事業の課題及び方向性	<p>・平成 29 年度に策定した「第 2 次安曇野市文化振興計画」に基づき、事業内容の充実や発展に向けて推進していきたい。</p>			
自己評価	B			

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.33	事務事業名： 諸団体との協働事業	H29年度決算額	13,163 千円
事業の目的	安曇野の風土と先人たちの営みによって、培われ、育まれてきた文化を土台に、新たな安曇野の文化、個性あふれる魅力的な文化を創造していくために、必要な環境の整備と文化を支える協働の仕組みづくりを推進する。			
事業内容	<p>諸団体への補助、協働による事業実施などを通じて、市民が多様な文化芸術に親しむ機会を創出し、豊かで潤いある市民生活の実現を目指した。</p> <p>(1) 第 18 回安曇野紙ヒコーキ競技大会 4月9日(日)報償費：63,721 円 (2) 第 13 回あづみの公園早春賦音楽祭 5月4日(木)補助金：1,900,000 円 (3) 第 54 回童謡まつり 5月5日(金) 補助金：500,000 円 (4) 第 27 回信州安曇野能楽鑑賞会 8月19日(土) 補助金：3,900,000 円 (5) 『安曇野文化』刊行 第 23 号～25 号発行 補助金：1,900,000 円 (6) 美術館博物館連携事業 ア 美術館等連携事業印刷物等作成・年間行事予定表デザイン印刷業務委託料 136,620 円 イ スタンプラリー・ギャラリートークリレー・学校ミュージアムほか 学校ミュージアム 1月25日(木)：堀金中学校 1月26日(金)：豊科北小学校 (7) 映像史料保存活用事業（あづみのフィルムアーカイブ）：3,780,000 円 ア 市民団体と協働し、各家庭に眠る昭和 50 年代までの 8mm フィルムを 収集しデジタル化を進め『よみがえる安曇野Ⅱ』を制作し上映会を開催。 イ 出前講座として『よみがえる安曇野』の上映会の開催 (8) 安曇野市古民家調査（信州大学工学部）：497,380 円 (9) 「懐かしき安曇野の水のすがた・移り変わりの記録」（川の自然と文化研究所）：486,000 円 ア 古写真の収集とデジタル化を行ない、写真展示と記念講演会の開催</p>			
達成状況	<p>諸団体との協働事業</p> <p>(1) 第 18 回安曇野紙ヒコーキ競技大会 参加者数 30 人 (2) 第 13 回あづみの公園早春賦音楽祭 来場者数 17,100 人 (3) 第 54 回童謡まつり 来場者数 550 人 (4) 第 27 回信州安曇野能楽鑑賞会 来場者数 433 人 (5) 『安曇野文化』刊行 第 23 号～25 号発行 (6) 美術館博物館連携事業 ア 美術館等連携事業印刷物等作成 市立美術館・博物館の年間行事予定一覧表を全校児童・生徒に配布。 イ ギャラリートークリレー・学校ミュージアムほか、文化庁の補助金を得て、市内公私立の美術館博物館で実行委員会を組織して諸事業を実施。児童の利用促進に結び付けることができた。 計 2,448 人</p>			

	<p>(7) 映画『よみがえる安曇野Ⅱ』完成上映会（あづみのフィルムアーカイブ） 来場者 580 人 ア 『よみがえる安曇野』上映回数 8 ヶ所 上映会来場者延べ約 380 人</p> <p>(8) 安曇野市民家調査（信州大学工学部） ア 本棟造りの成立過程の調査、古文書にみる建築材の比較から、他地域の棟造りとの違いを調査、建築部材樹種の調査。</p> <p>(9) 「懐かしき安曇野の水のすがた-移り変わりの記録-」（川の自然と文化研究所）記念講演会参加者 80 人</p>
事業の課題及び方向性	<p>・各事業とも、合併以前より各町村が行ってきた文化事業を継続して行っており、マンネリ傾向にあります。「信州安曇野薪能事業」は会場となる龍門淵公園周辺の整備工事が終わり、今後、屋外での薪能公演とするか検討が必要です。</p>
自己評価	B

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

事務事業	No.34	事務事業名： 財政支援団体への補助	H29 年度決算額	6,770 千円
事業の目的	<p>安曇野の風土と先人たちの営みによって、培われ、育まれてきた文化を土台に、新たな安曇野の文化、個性あふれる魅力的な文化を創造していくために、必要な環境の整備と文化を支える協働の仕組みづくりを推進する。</p> <p>安曇野市の文化振興の一翼を担う組織として、市が出捐する公益財団法人安曇野文化財団の自主事業の充実を図る。</p>			
事業内容	<p>財政支援団体への補助金交付</p> <p>(1) 公益財団法人安曇野文化財団運営補助 補助金：5,630,000 円</p> <p>(2) 一般財団法人井口喜源治記念館運営補助 補助金：1,140,000 円</p>			
達成状況	<p>1 財政支援団体の活動状況</p> <p>(1) 公益財団法人安曇野文化財団運営補助 生活工芸品の管理・活用、財団の管理運営（事務局業務）を実施した。</p> <p>(2) 一般財団法人井口喜源治記念館運営補助 井口喜源治の遺産を大切に保管・管理し、各種事業を実施した。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>・財政支援団体の活動にあたっては、事業内容に合った適正な補助金額の支出が必要。事業実施にあたって、各団体と連絡を密にし、効果的な事業推進を図ります。</p>			
自己評価	B			

※表の行の高さは自由に調整してください。

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

事務事業	No.35	事務事業名： 博物館・美術館等の管理運営	H29 年度決算額	139,861 千円																																					
事業の目的	<p>市民ニーズに沿い、各施設の個性や特徴を活かした魅力ある企画を実現できるよう、利用形態や運営方針の改善に努めるほか、施設間の連携強化を図る。</p> <p>市民が幅広く文化の魅力を理解し、豊かな感性や想像力を養うことができるように、学習・体験機会の充実を図る。</p>																																								
事業内容	<p>1 豊科近代美術館・田淵行男記念館・飯沼飛行士記念館・穂高陶芸会館・臼井吉見文学館・高橋節郎記念美術館・豊科郷土博物館・貞享義民記念館・穂高郷土資料館の管理運営を行う。</p> <p>2 博物館・美術館等の管理運営、資料の収集については下記で審議。</p> <p>(1) 博物館協議会 登録博物館 4 館及び類似施設 5 館の管理運営状況等について協議。全 3 回</p> <p>(2) 美術資料等選定委員会：美術資料の収集について協議。全 2 回</p> <p>3 「新市立博物館構想」を策定し、今後の安曇野市の博物館等の方向性を規定。</p>																																								
達成状況	<p>1 博物館等の運営状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>運営</th> <th>指定管理料</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊科近代美術館</td> <td rowspan="4">(公財)安曇野文化財団</td> <td>33,893,000 円</td> <td>21,465 人</td> </tr> <tr> <td>田淵行男記念館</td> <td>19,228,000 円</td> <td>8,894 人</td> </tr> <tr> <td>飯沼飛行士記念館</td> <td>2,244,000 円</td> <td>556 人</td> </tr> <tr> <td>穂高陶芸会館</td> <td>7,344,000 円</td> <td>2,514 人</td> </tr> <tr> <td>臼井吉見文学館</td> <td>ほたるぶくろの会</td> <td>2,185,000 円</td> <td>426 人</td> </tr> <tr> <td>高橋節郎記念美術館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>11,085 人</td> </tr> <tr> <td>豊科郷土博物館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>10,904 人</td> </tr> <tr> <td>貞享義民記念館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>6,277 人</td> </tr> <tr> <td>穂高郷土資料館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>1,315 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 目標数値等</p> <p>(1) 高橋節郎記念美術館 貸出施設(主屋・南の蔵)の稼働率(年間実使用时间/使用可能時間):51.5%</p> <p>(2) 貞享義民記念館 貸出施設(企画展示室)の稼働率(年間実使用日数/使用可能日数):88.93% 貸出施設(研修室)の稼働率(年間実使用时间/使用可能時間):12.54%</p>				施設名	運営	指定管理料	入館者数	豊科近代美術館	(公財)安曇野文化財団	33,893,000 円	21,465 人	田淵行男記念館	19,228,000 円	8,894 人	飯沼飛行士記念館	2,244,000 円	556 人	穂高陶芸会館	7,344,000 円	2,514 人	臼井吉見文学館	ほたるぶくろの会	2,185,000 円	426 人	高橋節郎記念美術館	直営	-	11,085 人	豊科郷土博物館	直営	-	10,904 人	貞享義民記念館	直営	-	6,277 人	穂高郷土資料館	直営	-	1,315 人
施設名	運営	指定管理料	入館者数																																						
豊科近代美術館	(公財)安曇野文化財団	33,893,000 円	21,465 人																																						
田淵行男記念館		19,228,000 円	8,894 人																																						
飯沼飛行士記念館		2,244,000 円	556 人																																						
穂高陶芸会館		7,344,000 円	2,514 人																																						
臼井吉見文学館	ほたるぶくろの会	2,185,000 円	426 人																																						
高橋節郎記念美術館	直営	-	11,085 人																																						
豊科郷土博物館	直営	-	10,904 人																																						
貞享義民記念館	直営	-	6,277 人																																						
穂高郷土資料館	直営	-	1,315 人																																						
事業の課題及び方向性	<p>・「新市立博物館構想」に基づき、管理運営体制の見直しや、一部の施設の統廃合について検討したいと考えます。歴史的な価値のある公文書や、古文書の収集・整理を引き続き実施、蓄積された貴重な資料を有効に活用するために、文書館の開館を目指したいと考えています。</p>																																								
自己評価	B																																								

※自己評価区分 A…優れた取組が多く、十分成果が上がっている B…優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C…一定の成果は上がっているが、課題もあり、改善の必要がある。D…成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である。

【個別の事務事業に対する意見、提言等】

No.	事務事業	意見・要望等
1～2	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校対策事業 ・適応指導教室運営事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級だけが児童・生徒の学ぶ場所ではなく、不登校傾向にある子どもにとって必要な居場所としての適応指導教室である。小学校、中学校とも、不登校児童生徒数が微減あるいは横ばいの状態であることは、関係の先生方等の努力の成果が表れている。 ・民生児童委員は地域の子どもと非常に密接な関係がある。地域との関係や、学校とのつながりを今後も一層緊密にしてほしい。その中で、民生児童委員が地域全体で子どもたちを守るといふ形につながっていくよう望む。 ・いじめの根源が家族間のトラブルに起因するケースもある。この場合、地域で様子をよく知っている人が中に入ることによって解決に導かれるというケースもあるので、参考にしてほしい。 ・いじめ不登校問題対策連絡協議会の会議が年2回ということだが、会議の回数を増やすなど、関係者が情報をより共有できる場としてほしい。形式的な会議ではなく、日常的に子どもに深く関わり、実情を把握している多くの人材の参画を求めることが有効である。 ・適応指導教室では、その子に自己肯定感を持たせることが、学校復帰につながる。適応指導教室は学校との間にワンクッション置いた場所であるので、常に門戸を広げ、迅速に対応できるようにしてほしい。
3～6	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談事業 ・就学相談事業 ・教育指導員等の配置 ・学校加配職員及びスクールソーシャルワーカー等の配置・派遣事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいの子どもたちの割合が増えている状況がある。H29からH30にかけて、信州大学の本田教授が発達障がいの子供たちを診察できる小児科医を増やす動きや、信大の学生に発達障がいの専門的な授業を行う動きなど、「発達障がいの子供たちの支援をどのように行っていくのか」を社会に広める努力をされている。最近も保育士を中心とした本田教授の講演会が開かれた。このように教育・保育従事者をはじめ、保護者が発達障がいについて、深く学ぶ機会を設けることが必要である。 ・いじめ、不登校の問題は、発達障がいをもつ子どもたちの問題とかなり重複している部分があるため、早期発見、早期対応が重要となる。子どもの発達について疑問が生じた場合、関わっている人間がすぐに声を出せること、その声を気軽に相談ができるという意味において、教育相談事業はとても大切な事業である。 ・子育てに関する年齢別相談件数では、小学生の相談が増大しており、低学年指導の重要性と難しさを感じる。このため、市内各校で低学年教育の充実をさらに図っていく必要がある。

		<ul style="list-style-type: none"> ・不登校にかかわる支援員も高齢化してきている中、概ね 65 才を原則としているが、大幅に年齢を超えている方もみられる。ベテランには、ベテランなりの優秀な方もいるが、体力的に激しく動き回る子供たちについていけない方もいるのが現状である。このことから、当該支援員の採用にあたっては、採用年齢の原則が守られるよう配慮する必要がある。 ・各小中学校に配置されている特別支援教育コーディネーター及び不登校支援コーディネーターの役割は、全校レベルで様々な事案に対応するとともに、支援会議への出席、保護者との連絡・調整など多岐にわたる。また、各コーディネーターには、特別な支援を要する対象児童生徒に関する様々な情報が蓄積されている。市が配置する各種相談員等との有機的な連携を一層強めるとともに、市としても年々増加している発達障がい傾向がみられる児童生徒への迅速な W I S C 検査の実施や、相談体制の充実について検討する必要がある。 ・市では、特別な支援を要する児童生徒への支援など、多様な教育課題に対応するため、多額の市費を投じて多くの加配職員を小中学校に配置している。このように、市として個に応じたきめ細やかな教育を進めていることを、学校などを通じて保護者に伝えるとともに、市の広報等で、その効果・成果などを広く市民に示していくことが必要である。また、各支援員間の連携は絶対的に必要なことであるので、引き続きこのことを継続してほしい。 ・教育指導員の配置については、自己評価のとおり成果や手応えがあると考えているので、一層切れ目ない支援体制のもとに取り組みを進めていただきたい。 ・学校加配職員による支援体制により、教育をきめ細かく行うことは、将来の明るい社会をつくる上で大事なことであり、人材を育成していくための一番の基本となる。家族の力を借りながら正しく成長でき、どれだけ社会人として、社会を形成していく上で役立つ人間になるかが目的であり、予算を多少費やしても取り組むべき大事な部分である。市費により小中学校へ配置している67名の支援員の努力にあらためて感謝したい。
7	学校 ICT 事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣と比べた場合、安曇野市は電子黒板の導入が遅れているということを先生や保護者から聞いていた。今回、中学校に電子黒板が導入されたことは教育の振興を図る上で画期的であり、今後、小学校への拡大を望む。
10	中学生議会事業	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業では、大人が気づかないところに子どもたちの視点があり、市民にも勉強してもらう良い機会となっていることは評価できる。

11	指導主事「授業支援」事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領実施にほぼ合わせる形で、指導主事というポストを置いたことは評価する。頼りになる身近な存在として活躍していただいていることは、学校関係者にとって大変心強い。
12	入学準備金貸付制度	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本学生支援機構」の奨学金についても、返済できず自己破産に至ったといったケースがある。入学準備金貸付金については、保護者の十分な理解を得た上で貸し付けることが重要である。
13	学校安全対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路合同点検により、具体的に改善された箇所が何ヶ所もあり、子どもの安全性が高まってきている。関係者による合同点検の意義を強く感じるので、これを継続して行って欲しい。 ・地域の大人が子どもに対し、あいさつ程度の話をしたところ、それを聞いた保護者が不審者扱いしたとの話を聞く。地域の方が子どもに挨拶もできなくなってしまう環境を危惧する。保護者にも不審者に対して過敏な傾向が見られるので、学校側も事案に対して検討の上、発信して欲しい。
14	小・中学校施設改修事業	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体育で無人状態の学校体育館等を使用した利用者が、修繕箇所に気づいた場合の窓口（意見箱、目安箱等）があれば、より利便性の向上につながるので検討してほしい。 ・学校のトイレ使用に伴う節水意識が不足している感がある。（特に女子の場合）。環境面からも、学校生活の中での節水、節電等の意識を高めることが大切である。
16	青少年健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアリーダー養成講座を経験した子供たちが、地域に戻って活躍できるよう 98 地区の公民館全てに浸透させて欲しい。
19	生涯学習講座実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ・講座に若者の参加が少ない理由として、開催の時間帯が影響しているように思う。例えば、冬季の夜より、夏に夕涼みがてら参加できる等、ニーズと時間帯に工夫することにより、若者もより参加できるのではないか。
20	社会教育団体支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化協会については、穂高地域は会員が減っていないが、豊科地域は徐々に減っている状況がある。穂高地域の場合、集まりやすい環境づくりや運営の仕方についても工夫されている。豊科地域においても、入りやすい、魅力のある芸術文化協会を目指し取り組んで欲しい。
22	児童館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブは、子どもの安全も確保されており、親も安心して働くことができる環境づくりに役立っている。今後も、安全で子育てにやさしいまちづくりという観点での運営に心掛けて欲しい。

24	交流学習センター等事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新進の音楽家は発表の場に恵まれない状況がある。将来、新進音楽家を育てるためにも、周知の方法等を工夫するなど一層の集客を図って欲しい。市民が協力、応援をしていかなければ、芸術家は育たない。
25	図書館活動の推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中、子どもの生活リズムを崩さないためにも、中央図書館以外の図書館の開館時間を1時間早め、午前9時からとしてはどうか。なお、開館時間を変更した場合は、きめ細かな周知を行ってほしい。
26	人権教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市協働のまちづくり出前講座として、人権に絡めた講座が実施されていることは評価できる。
27	人権啓発事業 (安曇野市1/2成人式記念 人権・平和特別授業～kizuki～)	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市1/2成人式記念 人権・平和特別授業～kizuki～は、学校でなく場所を変えて行う特別な授業ということであり、子どもたちの心に残る事業であると感じている。 ・小学4年～6年までが参加する方法よりは、10才で1度経験するという現在の形の方が望ましい。
29	市民スポーツ祭	<ul style="list-style-type: none"> ・開催会場である堀金体育館内の放送に対して、聞き取りにくいとの意見が毎年出されるため、速やかな改善を求める。
35	博物館・美術館等の管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財を所有する地区所有者が、あらためて文化財の価値を認識し、大切にしてもらえるような手立て、働きかけが必要である。